

2013 年 9 月 23 日 (月・秋分の日)

【対象者】 全学部の 2013 年 9 月 卒業者

※卒業合否発表は、9 月 6 日 (金) になります。

式典は朱雀キャンパスにて行います。
衣笠・BKC 所属の方も朱雀キャンパスで出席してください。
所属キャンパスにより開式時間が異なりますのでご注意ください。
朱雀キャンパスへのアクセスは、立命館大学のホームページをご覧ください。

■ 衣笠キャンパスの学部所属の方

時間 / 10 時 30 分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室 (5 階ホール)

■ びわこ・くさつキャンパスの学部所属の方

時間 / 13 時 30 分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室 (5 階ホール)

- 30 分前開場 (10 分前までにご着席ください)、開式後は入場できませんので時間厳守をお願いします。
- 式典に出席される方で手話通訳の必要な方・車椅子でお越しの方は、8 月末日までに所属の学部事務室へ申し出てください。

学部別懇談会 (秋のオープンカレッジ)・アカデミック京都ウォッチング開催のご案内

学部別懇談会～秋のオープンカレッジ～

2013 年 11 月 16 日 (土) 13:00～16:00 (予定)

【場所】 衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス

学部別懇談会を実施。お子様が学ばれている学部の教員や職員が学生生活や進路・就職についてお話しします。また学部内に在籍している学生の体験談などもお聞きいただけます。お子様の所属する学部・学科の学びや進路について知っていただけるまたとない機会です。



9 月中旬頃、ご案内をお送りします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

アカデミック京都ウォッチング

2013 年 11 月 17 日 (日)

京都や滋賀の歴史や文化について詳しい本学教員による講義の後、フィールドワークを実施します。本学教員または京都学生ガイド協会に所属する本学学生がガイドを務め、京都や滋賀の街をご案内します。



父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページからは…
「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

■ 会員の住所変更について

本誌は、学生が学部へ届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。各学部事務室 (BKC 所属の方は学びステーション) まで学生証を持参の上、手続きするようお子様にお伝えください。

※最近、立命館や関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学外には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。



立命館大学
父母教育後援会だより



立命館大学父母教育後援会だより 2013 年度 夏号

2013 年 8 月 発行 立命館大学父母教育後援会

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町 1 Tel.075-813-8261 Fax.075-813-8262

ごあいさつ

父母教育後援会会員の皆さまにおかれましては、平素より本会への深いご理解と厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、東日本大震災から二年が経過しましたが、改めて犠牲となられた方々のご冥福と一日も早い復興をお祈り致します。

立命館大学生には知識や常識を身につけるだけでなく、様々な経験を積み、“人間力”を高めていってほしいと思います。それは人の痛みがわかり、飛躍するための努力を惜しまず、困難なことに自ら立ち向かっていける人間であり、そのような人材こそ今の社会で求められています。4年間の学生生活でそうした力を身につけてもらえるよう、父母教育後援会と致しましても、学生へのサポートを全力でしていきたいと考えています。そして、社会に出ても立命館大学の卒業生として、自信と誇りを持って歩んで行ってくださることを切に願います。



立命館大学父母教育後援会会長
三好 正晃

INDEX

巻頭特集

春のオープンカレッジ..... 3

親の心配、子どものホンネ。.....	12
キャンパスライフ 1日密着	13
ゼミナール訪問	14
部活動&サークル Watching	18
学生イベント&スポーツ	19
大阪梅田キャンパス紹介	20
立命館大学父母教育後援会 2012 年度受賞者一覧	22
東日本大震災—私たちにできること—	28
大阪茨木キャンパスレポート	29
キャンパスインフォメーション	30

のぞき見!

キャンパスライフ

5月19日(日)、初夏の訪れ感じる緑鮮やかな衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで「2013年春のオープンカレッジ」が開催されました。あいにくお昼前から雨が降り始めましたが、傘を差しながらのキャンパスツアーにも多くの父母の方が参加。各講演会・説明会では熱心に聞き入る姿が印象的でした。今回は初めてオープンカレッジに参加した1回生の父母、衣笠夫妻・琵琶湖夫妻のコメントを交えながら当日の様子をご紹介します!

春の
オープン
カレッジ
2013



衣笠 キャンパス



留学を希望する娘に、親として何ができるか考える機会になればと参加!

衣笠さん 夫妻
法学部 1回生の父母

タイムテーブル

9:00	受付 以学館	オリジナルエコバックを受け取ります
10:00	留学説明会 以学館 4号教室	留学中のサポートや費用が気になるころ
11:20	学生生活講演会 以学館 3号教室	
13:00	昼食 諒友館食堂	今後の親子関係のために役立ちそう

BKC キャンパス



大学にはどんなサポート体制が整っているのかを知りたいと参加します。

琵琶湖さん 夫妻
理工学部 1回生の父母

タイムテーブル

9:00	受付 セントラルアーク	教員免許が欲しい息子にアドバイスできれば
10:00	教職説明会 コラーニングハウス I 103 教室	
11:20	スキルアップ説明会 コラーニングハウス I 202 教室	4年間でどんな資格が取れるのかな
13:00	昼食	噂のランチストリートに行ってみよう!



のぞき見！春のオープンカレッジ



今年も、子どもたちの大学生活の今を実感できる、さまざまな企画が実施されました。4年間が子どもたちを成長させる機会にあふれていることを実感でき、また親子のコミュ

ニケーションを深めるきっかけとなったのではないのでしょうか。

10:00 ~ 11:20 留学説明会

留学経験を経て「求められる」グローバル人材を目指す

堀江国際部副部長が学生時代に留学することの意義を説明されました。「今、社会に求められているのはグローバル人材」と語り、現在の採用情勢のなかで、留学経験で培われる主体性や自立性、多様性に対応できる力が重要視されていると説かれました。さらに留学前後のプロセスに対する支援体制についての説明の後、事務局から大学の留学プログラム（短期のイニシエーション型、中長期のモチベーション型、長期のアドバンスト型）の概要や費用について説明がありました。実際に留学した学生は「踏み出すことの大きさを痛感した」「離れて両親の偉大さを感じた」など体験談を語りました。



留学前後のプロセスへの支援も大切です



独自の留学プログラムでは危機管理対応や留学アドバイザー制度がしっかりしていて安心。私たちのサポートも大切ね。



奨学金が支給される留学プログラムも



11:40 ~ 13:00 学生生活講演会



人生の探求期である大学時代は親も自らを見直すべきとき

「大学生の親になるう～子どもの巣立ちに向けて親ができること～」と題し、文学部の宇都宮准教授が講演されました。青年期の最中にある学生にとって大学時代は自己のアイデンティティを形成する大切な時期であること、子どもの成長に従い家族のあり方を変化させ、親子がより対等な関係になることの必要性が述べられました。そしてこの時期は「親自身のアイデンティティを見直す時でもある」と話し、子どもの巣立ちをどう受け止めるかについてのアドバイスもされました。最後には4人の学生が登場し、家族との関係や今後の展望、両親へのメッセージなどを等身大の言葉で話しました。

子どもだけではなく、親も成長していかなくてはいけないと感じるね。親子関係について考え直すきっかけになりそう。



大学時代は親子関係においても大切な時期



TODAY'S LUNCH

きょうのおひる 父母 Ver.

衣笠キャンパス【諒友館食堂】

毎号好評いただいている、学生のランチとキャンパスライフを紹介する「きょうのおひる」コーナー。今回は特別に、オープンカレッジに参加した父母の方のランチをのぞき見。皆さん、子どもが普段食べているメニューに興味津々のようでした。

魚やおひたしなど、和食系でまとめてみました。健康的なメニューが揃っていて安心しますね。

学食のメニューは種類が豊富ですね。たくさんあるなかから、選ぶのが楽しかったです。

レシートにカロリーと栄養価が表示されるから健康管理ができそうだね。

家庭的なメニューで、親しみのあるおいしさ。300円でお腹いっぱいになれたらなと思います。

島田さん ご夫妻 産業社会学部4回生

森田さん ご夫妻 文学部1回生

戸田さん ご夫妻 映像学部2回生



普段は至徳館購買部で販売しています

特設テントでオリジナルグッズを販売

特設テントで販売された立命館グッズは、学生のアイデアをもとに制作された文具もあり、どれも立命館のこだわりが詰まったものばかり。豊富なラインナップを前に、どれをおみやげにしようかと悩む父母の方たちの姿が見られました。



大学でのサポートを知ること、今私たちが何をすべきかが明確になりました。娘が留学を希望していると聞いた時は心配になりましたが、留学中のケアや奨学金のことも分かり、安心して子どもを応援できます。親子関係に関するアドバイスも聞いて、充実した1日になりました。来年は進路・就職講演会や大学院進学説明会に参加したいです。



他にもこんな講演がありました！

進路・就職講演会

学外の講師による現代の就職事情についての実践的な講演会。企業が求める人材や採用基準、面接の仕方など就職に関する具体的な話をされました。

教職説明会

教員免許を取得するまでの4年間の学びの流れを説明。教職支援センターで開催している講座や、大学で受けられるサポートについて紹介しました。

大学院進学説明会（文社系）

大学院での学びや進路・就職支援、充実した奨学金制度等を説明しました。現役院生による実際の大学院生活の話もありました。

大学院進学説明会（公務研究科）

公務員として求められる能力や資質、そして公務員になるために必要な準備等について、教員や官庁・自治体で活躍する立命館の卒業生が説明しました。

スキルアップ説明会

授業後に学内で受講できる公務員、司法書士などの資格講座、言語習得センターの多彩な外国語講座などについて、受講するメリット等を説明しました。

アカデミック講演会

産業社会学部の教授による「ケアメンを生きる～変わる家族と暮らしを視る～」がテーマの講演。介護する男性「ケアメン」に焦点を当て現代社会を語りました。

就職相談会

4回生以上の父母対象。2013年度の採用状況報告の後、学部ごとに分かれ、キャリアオフィススタッフが参加者のご質問に懇談会形式でお答えしました。

詳しくは…
立命館大学
父母教育後援会
ホームページ
<http://www.ritsume.ac.jp/mng/fubo/>



特集
春のオープンカレッジ



のぞき見！春のオープンカレッジ



4年間の大学生活のなかには、正課の学びを充実させたり、進路や就職に向けて意欲的
BKCのオープンカレッジでもそれらの大学の支援を知ってもらうための説明会、講演

に取り組むためのサポート体制や多彩なプログラムが整えられています。
会を多数開催。子どもたちの置かれている現状を知り、将来を考える絶好の機会となりました。

10:00 ~ 11:20 教職説明会

教員免許取得に必要な自主性を高めるためにサポート体制を構築

教職教育総合センター副センター長の友大スポーツ健康科学部教授が、教員免許取得までの流れや単位の取り方などについて丁寧に説明されました。そのなかで立命館の利点として、教育学部などの目的学部と違い、教科に関する授業を各学部の教師陣からより専門的に学べる事が挙げられました。BKC教職支援センターの浦島主任からは、センターが取り組む支援制度や現在の採用状況などの説明がなされました。センターに集まった学生は教科や校種ごとに自主的にグループをつくり（「自主ゼミ」という）、そのなかで仲間との関係を築き学び合い、意識を高め合っています。浦島主任はこれを「他の大学にはない誇るべき点」と話されました。



立命館ならではのサポート体制があります



教育実習の様子
がわかる写真を
紹介



歴史ある教職支援センターのサポートは1回生からも利用できるね。困ったときには相談できる先生もいるので安心。

11:40 ~ 13:00 スキルアップ説明会



学部外の勉強が興味を広げるきっかけに

学生の可能性を引き出すため各講座で学びを幅広く支援

エクステンションセンターでは国家公務員、公認会計士、司法書士などの資格取得のための対策講座を、CLA（言語習得センター）では語学力の向上を目指すためのTOEIC講座などを開催しています。講座の紹介のなかで共通のメリットとして、校内で平日の18時から開催されるため正課に影響が出ず、移動時間・費用がかからないこと、そして経験豊富な教師陣の講義を、共通の目的を持つ仲間と共に受けられることが述べられました。またCLA講座は、一般的な外国語講座よりも安価であることも重要なメリットだと説明。学生にとって資格・語学力はゴールではなく、夢への一手段であると語られました。

難関資格の取得に対して強力なバックアップがあるみたい。「エクステンション=魅力・興味を引き出す」に納得！



TODAY'S LUNCH

きょうのおひる 父母 Ver.

BKC キャンパス

BKC キャンパスでは学生に好評のランチストリートを中心に、地域のお店が多数出店してお昼の時間を賑わしています。ランチストリートは平日だけの営業ですが、父母の方に食べていただくため、この日は特別に開店しました。

ユニオンスクエアカフェテリア

井上さん ご夫妻
生命科学部4回生

カフェテリアは小鉢の種類がたくさん。これなら栄養バランスを考えて食べられそうです。

ユニオンスクエアカフェテリア

平瀬さん ご夫妻
経済学部1回生

選択肢が多くて迷いましたが、2人とも種類を選びました。美味しいですよ。

サブウェイ

西川さん ご夫妻
スポーツ健康科学部1回生

キャンパス内に「SUBWAY」があるのは驚きました。授業の合間などに利用しやすいですね。

ランチストリート

北尾さん ご夫妻
経営学部3回生

「ランチストリート」でお弁当購入。300~500円と手軽な値段なのにボリュームがありますね。

ランチストリートとは？

お昼時になるとキャンパス内に屋台やワゴンなど約10店舗が並び、井物や無国籍料理など多彩なメニューを提供。2年前の春にオープンし、近隣に飲食店の少ないBKCのお昼事情を充実させました。

食べ盛りの学生や留学生、女性にもうれしい料理が揃っているね。

漠然と考えていた子どもの大学生活だったけど、現代の大学生事情も知ることができ、4年後のことまで思い描けるようになりました。1回生からでも始められることがたくさんあると知ったので、帰って子どもと話をしてみたいと思います。しっかりとしたバックアップ体制のなかで、さまざまなことに挑戦しつつ学びを深めて欲しいです。



他にもこんな講演がありました！

進路・就職講演会

学外講師を招いての実践的な講演会。学生を取り巻き日々変容する就職情勢と、そのなかで求められる学生像について具体的に解説しました。

留学説明会

留学を考えている学生の父母を対象とし、留学プログラムの概要や募集選考スケジュールを紹介。気になる費用や就職活動との両立についても説明しました。

大学院進学説明会（理系）

理系の大学院進学に向けての入試情報や大学院での学び、院卒業後の進路について解説。現役院生による大学院生活や院生の就職活動の体験談もありました。

大学院進学説明会（社系）

経済学研究科、経営学研究科、スポーツ健康科学研究科の大学院進学に関する説明会。大学院生の体験談も交えて、大学院生活やその後の就職についても紹介。

学生生活講演会

「大学生の親になろう～学生の自立と親の役割～」をテーマにした立命館大学の教員による講演。また大学生数名が今の大学生活について語りました。

アカデミック講演会

情報理工学部准教授による「祇園囃子のデジタル収録と高臨場再生」講演会。祇園囃子の高忠実なデジタル収録・保存技術や、音場再生技術が紹介されました。

就職相談会

2013年度採用戦線の報告と就職活動への支援内容を説明。学部ごとに分かれ、キャリアオフィススタッフが参加者のご質問に懇談会形式でお答えしました。

詳しくは…
立命館大学
父母教育後援会
ホームページ
<http://www.ritsume.ac.jp/mng/fubo/>



特集
春のオープンカレッジ



キャンパスライフを垣間見

父母に大学のことを知ってもらうため学生自らが企画し、日頃の学生生活を語りながらの大学生事情が聞けて、子どもたちの大学生活を身近に感じることができます。今年は衣

衣笠キャンパスが誇る施設の数々を紹介！

最新設備が整った体育館や1000人収容できる教室、伝統と文化を感じさせる貴重な資料が詰まった研究室など、衣笠キャンパスには多彩な施設が備わっています。学生生活のエピソードを聞きながら施設を見学するので、具体的に子どもたちのキャンパスライフをイメージできます。

立命館での学生生活をイメージして頂けるように、ナビゲーションします！



岡部 茜さん
文学部3回生



1 図書館

館内の広々とした自習室は試験前には学生でいっぱいになります。最近グループディスカッションができる部屋が新設されて、1人でも複数でも利用しやすい施設になりました。



約90万冊の蔵書があります

2 清心館 マップライブラリー

文学部で地理学を学ぶ学生のための地図の図書館。明治以降に日本政府が発行したほぼ全ての地形図の他にも世界各国の貴重な地図が所蔵されており、大学規模では随一のコレクションです。



本格的な地理学を学べます

3 清心館 考古学研究室

文学部考古学・文化遺産専攻の学生の研究室兼作業部屋。出土した土器を復元したり、図面を描いています。学生自らが、一から土器を作ることで考古学の学びを深めています。



調査で出土した土器を保管

4 明学館

1000人収容可能な大教室です。著名人など外部からの講師を招いての講演会やさまざまなガイダンスを開催。後ろの席までクリアに聞こえる音響システムが導入されています。



立命館で最大規模の教室

5 体育館

今年新設された体育館。地下3階、地上1階建ての中には競技・練習場のほか、格技場や柔道場もあります。館内は無線LANが整備され、クラブ活動や授業の効率化が期待されます。



衣笠で今イチオシの施設！



ぜひまた来年もツアーに参加してくださいね。

秋山 夏海さん
文学部2回生

る！キャンパスツアー



キャンパスを案内するツアーは毎年大好評！普段は入れない施設を見学したり、現在笠での文学部ツアー、BKCでのスポーツ健康科学部ツアーの様子をご紹介します。

多種多様な学生や学びに適した設備

大学とは思えないほど研究施設が充実しているBKC。あらゆる学生に対して、多面的・多角的な研究ができるように整えられています。キャンパスツアーではBKCの顔となる主要な施設をご案内。普段子どもたちが利用している施設に足を踏み入れ、大学生活に触れることができます。

全国各地から学生が集うBKC。広大な敷地と充実の施設が自慢です！



但馬 惟之さん
スポーツ健康科学部3回生



1 ラルカディア

理想郷という意味のアルカディアの頭に立命館の“R”を足した名前を持つ建物。スポーツ健康科学部の学部棟で、103mの廊下は走る動作を研究する場としても使われています。



椅子はクッション付きです

2 インテグレーションコア

スポーツ健康科学部の研究・実験施設です。2階の展示室には立命館OBで元ヤクルトスワローズ・古田敦也さんのユニフォームを展示。MRI室などもこの建物にあります。



朝食実習を通じ食を学ぶ「エコスタジオ」

3 コラーニングハウスI

BKCの学生なら誰もが使う建物。1階から4階まで300人近い定員の大教室や情報処理演習室があり、一般教養などの授業も行なわれます。一番大きい教室の定員はなんと800人！



壁にはサークル勧誘のチラシがたくさん

4 BKCジム

トレーニングジムと体育館があります。最先端のトレーニング機器の揃ったジムは1回講習を受ければ誰でも利用可能。巨大な体育館は、運動系サークルが予約した上で使うことが多いです。



体育館はバスケットコート3面分の広さ

5 アクロスウイング

経済・経営学部向けの図書館があり、蔵書は約40万冊にも及びます。他にもメディアライブラリーなどさまざまな施設が。国際交流ラウンジにはイスラム礼拝スペースもあります。



2階グループ学習室はプレゼンの練習に



ツアーで大学生活を感じてもらえたら嬉しいです。



春のオープンカレッジに参加しました！



今年の春のオープンカレッジには両キャンパス合わせて2,644名のご父母が参加しサポート体制を知る良い機会となったのではないのでしょうか。実際に参加された父

母の皆さまに、参加したプログラムとその感想を伺いました。現代の大学生事情や大学の

子どもが日本史専攻なので、考古学研究室が「キャンパスツアー」内で印象的でした。子どもには4年間で好きなことをのびのびとやって欲しいです。



井上さん ご夫妻 (文学部1回生)

◆参加したプログラム◆
キャンパスツアー

法学部の「キャンパスツアー」では移築された法廷を見学できて興味深かったです。教育の一環としても、学生が大学を案内するのはいいことですね。



有堀さん ご夫妻 (法学部1回生)

◆参加したプログラム◆
教職説明会/キャンパスツアー

子どもの進路を一緒に考えられればと、「進路・就職講演会」に参加しました。JTBの方のお話では、選考における着眼点などを知ることができました。



佐藤さん (法学部1回生)

◆参加したプログラム◆
進路・就職講演会/学生生活講演会

子どもが1回生のときにも参加したので、今回で2回目です。高校の頃よりも勉強が楽しいと聞いていますが、この環境を見たら納得しますね。



松本さん ご夫妻 (理工学部3回生)

◆参加したプログラム◆
大学院進学説明会

普段、なかなか子どもと話す機会が持てないのですが、オープンカレッジ参加は会話のいいきっかけになります。ですから毎年参加していますよ。



中谷さん ご夫妻 (情報理工学部3回生)

◆参加したプログラム◆
進路・就職講演会/アカデミック講演会

入学式のとき以来のBKCですが、今の季節は本当に新緑がきれいですね。先ほど子どもの下宿に寄ってからきたのですが、元気そうで安心しました。



富田さん ご夫妻 (経営学部1回生)

◆参加したプログラム◆
海外留学説明会/学生生活講演会

「キャンパスツアー」と「学生生活講演会」では、学生の生の声が聞けて良かったです。親自身の心構えとして、いろいろと考えさせられました。



樋口さん ご夫妻 (法学部1回生)

◆参加したプログラム◆
キャンパスツアー/学生生活講演会

1,242名の父母が集まりました

衣笠
キャンパス



大学のなかを見てみたくて参加しました。わかりやすく楽しく案内してくれる学生を見て、うちの子どももあんな風に育って欲しいと思いました。



櫻井さん ご夫妻 (政策科学部1回生)

◆参加したプログラム◆
キャンパスツアー

“昔の大学のキャンパス”のイメージとはずいぶん違いますね。情報インフラも充実していますし、学びの場としては最高の環境だと感じました。



飯田さん ご夫妻 (生命科学部1回生)

◆参加したプログラム◆
海外留学説明会/キャンパスツアー

1,402名の父母が集まりました

BKC
キャンパス



「キャンパスツアー」は私たち学生が企画して行っています。学生自身の実体験も踏まえての案内なので、父母の方の評判も上々です！



藪内さん 経済学部3回生
千種さん 生命科学部2回生
植西さん 経済学部2回生

富田さん 生命科学部3回生
林さん 生命科学部2回生

子どもが3回生なので「進路・就職講演会」でのお話が参考になりました。面接の仕方や採用基準が聞けたので、子どもにアドバイスができそうです。



上田さん ご夫妻 (文学部3回生)

◆参加したプログラム◆
キャンパスツアー/進路・就職講演会

子どもが進路の1つとして考えているようなので、「大学院進学説明会」に参加しました。親としても大学院の知識を得ることができて良かったです。



竹谷さん (文学部3回生)

◆参加したプログラム◆
大学院進学説明会/キャンパスツアー

「学生生活講演会」では親との関係について、学生の素直な気持ちを聞くことができました。私(父)は同じ文学部出身なので、当時から懐かしかったですね。



大道さん ご夫妻 (文学部1回生)

◆参加したプログラム◆
キャンパスツアー/学生生活講演会

よほど下宿の居心地がいいのか、子どもがなかなか実家に帰ってきてくれません。なので私が毎年こちらに来て、オープンカレッジに参加しています。



棚橋さん (理工学部3回生)

◆参加したプログラム◆
大学院進学説明会

私自身(母)文学部卒業で衣笠に通っていましたが、BKCにはまた違った良さがありますね。「進路・就職講演会」は、今の段階で聞いておいて良かったです。



戸田さん ご夫妻 (経営学部3回生)

◆参加したプログラム◆
進路・就職講演会/キャンパスツアー

「海外留学説明会」に参加しました。いずれ機会があれば留学を、と考えていますが、奨励金のごなど具体的な内容を聞くことができて良かったです。



吉田さん ご夫妻 (経済学部1回生)

◆参加したプログラム◆
海外留学説明会/キャンパスツアー

学生生活を
支える

親の心配、子どものホンネ。

子どもが社会に飛び出していくための大事なステップとなる大学生活は、父母にとっては子どもの成長を見守る最終ステージです。4年間の生活のなかで、父母と子どもの思いは知らない間に重なり合ったり、離れたりを繰り返していくことでしょう。普段はなかなか伝え合うことのない、親と子の心のうちを語っていただきました。

親 玉城 道夫さん 子 玉城 南さん (文学部3年生)

親の声

娘の気持ちを尊重しながらも きちんと親の思いを伝えていきたい

娘の生活は幼稚園から高校卒業まで、新体操一筋でした。小学校5年生の時に、オリンピックに向けての競技者育成プログラムのメンバーに選ばれ、海外での合宿に参加することもありました。1人ではスーツケースも持てない頃に、貴重な経験を積むことができたと思っています。

娘の新体操の競技人生で最大の試練は、高3のインターハイ県予選のとき。沖縄県で初めて開催されるインターハイへの出場は、競技生活を締めくくる集大成でもありました。しかし本番前日にけがが再発し、痛みで思うように体が動かない状態に。これまで弱音を吐かず必死に練習に打ち込んできた娘の泣く姿を、初めて目にしました。不安と強いプレッシャーに苦しむ娘をただ見守ることしかできなかったことは、親としてもつらい体験でした。

大学に入学するまではそのように新体操中心の生活だったので、今は生まれ育った沖縄から遠く離れた京都で、さまざまなことを経験してほしいという思いがあります。そして、いろいろな方との出会いを大切にしてもらいたい。これまでの娘の人生は、多くの人に支えられてきたものでした。そんな娘に言い続けてきたことは、どんな時も感謝の気持ちを忘れず、人には思いやりを持って接しなさいということ。子育てはずっと家内に任せてきましたが、そのことだけは唯一、誕生日や大学入学などの節目に私から伝えてきたことでした。

父と娘の会話はもともと少ないうえに、沖縄にもあまり帰ってこないで、大学に入ってから娘がどのようなことを考えているのか、これまでよくわからないままでした。しかし今年の3月に京都マラソンに参加するために私が1人で京都に行った際、初めて2人でゆっくり話ことができました。就職など将来に対する本人なりの考えを知り、少し成長を感じましたね。私は娘にはできれば地元で就職してほしいという気持ちがありますが、本人は京都に残りたい様子。親の気持ちを押しつけてはいけないとは思っているのですが、地元での就職を1つの選択肢として考えてくれたらという思いに留めています。

いずれにしても、自分のペースにあるものを信じ、残りの学生生活を真剣に取り組んでいくことを望みますし、そのなかで自ずと道は拓けていくのではないかと思います。



子どもの声

5歳から13年間打ち込んできた新体操は、自分の人生の土台となったもの。大学に入学してから、新体操を上回るものを見つけられないのではないかと悩んだ日もありました。でも少しずつ、新しい世界に目を向けられるようになりました。今はアジアの地域のことに関心を持ち、韓国や中国の大学生との交流を深めています。人と関わるのが好きなので、将来はそんな仕事ができればと思います。地元も大好きですし、そこでの就職を望む父親の気持ちもよくわかりますが、京都での生活も大切にしたいので、卒業後ももう少しここで頑張りたいです。でも昔は素直に受け取れなかった父親のそんな思いも、離れて両親のありがたみを感じられるようになってから、向き合えるようになりました。今後はもっとお互いのことを何でも話し、支え合える親子でありたいです。



キャンパスライフ 1日密着

大学生になると、1日の過ごし方も学生生活で夢中になるものもそれぞれ。立命館大学生は日々どのようなキャンパスライフを送っているのでしょうか。衣笠、BKC 各キャンパスの学生の1日を追いかけてみました！

衣笠 種子田 竹朋さんの場合



法学部2年生
宮崎県出身、ひとり暮らし。公務員試験に向けて日々勉強に励む。

My schedule for one day

08:00 起床 09:00 1限目 10:40 2限目 12:10 昼食 13:00 3限目 15:00 図書館 18:00 公務員講座 21:30 夕食 22:00 帰宅 24:00 就寝

先生の話はしっかりノートに取ります



図書館で自習を始める前に中庭でひと息



講座終了後は学食でご飯を済ますことも

1年半後の試験に向けて猪突猛進！ 夢を叶えたい気持ちが毎日の原動力

1日に3~4コマの授業があり、加えて今年の4月からは授業後にエクステンションセンターの国家公務員総合職コースを受講しているので、課題や予習、復習に追われる毎日です。でも将来は環境省か経済産業省で働き、エネルギー関連の政策づくりに携わりたいという夢があるので、忙しくても頑張っています。2回生の今だからこそやりたいことに集中しないと、温かく見守ってくれる両親にも感謝しています。



静かな図書館で集中！

友達との食事時間で気分リフレッシュ



公務員講座までの空き時間は図書館で過ごします

わたしのマストアイテム！



法律用語が調べられる電子辞書、パワーポイントの画面を撮影できるスマホは大活躍！

BKC 宮本 葵さんの場合



情報理工学部2年生
鹿児島県出身、ひとり暮らし。中学校から始めた弓道に精を出す。

My schedule for one day

07:00 起床 09:00 1限目 10:40 自習 12:10 昼食 13:00 3限目 18:00 京都へ 19:00 部活動 23:00 帰宅 24:30 就寝



空き時間にはパソコンで勉強することも

今から2コマ連続で実験の授業です



部活動を終えて帰るといつもこの時間

授業やバイトを効率良くこなす すべては弓道に集中するために

BKCでの授業後は、毎日急いで京都にある弓道場に駆けつけます。1回生のときに授業との両立に悩んだので、現在は両方に集中できるような時間割で授業を組んでいます。週末も部活動と試合が必ずあるので、時間に融通が利くコンビニでのバイトを選び、日頃から部活に専念できる態勢を整えています。そのかいあって5月の個人選で優勝することができました。今後も弓道部の仲間と一緒に頑張っていきたいです。



毎日弓を引いています

大学のカフェでスイーツを食べつつおしゃべり

立命館大学弓道部は全国大会での優勝実績も多数



わたしのマストアイテム！



これまで友達からもらったお守りや励ましの手紙は、私の宝物です

ゼミナール
訪問

2012年度 映像学部卒業制作・大学院映像研究科修士制作 合同展示・上映会

立命館映像展

2013年2月20日(水)～22日(金)開催

イオンモール KYOTO で映像学部生・映像研究科生のイベントを開催しました。

映像の可能性を追究する 80 作品が集結!

2013年2月、イオンモール KYOTO のシネマコンプレックス「T・ジョイ京都」にて、映像学部卒業制作および大学院映像研究科修士制作の展示・上映会を開催しました。2011年3月卒業の学部第1期生から数えて3回目の開催となった今回。2011年に開設された大学院映像研究科の第1期生を迎え、学部生と研究生とはじめての合同展示・上映会となりました。「映像」を通じて人と社会に貢献する人間の育成をめざす映像学部では、学びの集大成となる「立命館映像展」を一つの作品と考え、個々の作品制作はもちろん、会場の設営準備からイベント当日の場内案内、映像作品の上映作業まで、すべて学生が中心となって運営します。

3日間を通して、映画、CM、ドキュメンタリーなど27の映像作品を上映したほか、ゲームやメディアアート作品など53の展示作品が並び、会場は多くの来場者で熱気に包まれました。



卒業生 voice



水川史也さん
映像学部 2013年3月卒業
株式会社数ヶケーブルテレビに就職

映像制作の専門知識とプロデュース力を育んだ4年間

「実写系映像制作ゼミ」に所属し、映像展の運営に携わりました。T・ジョイ京都での映像展の開催は今回で3回目。先輩方が築いたノウハウを活かしつつ、新たな取り組みにも挑戦しました。特に力を入れたのはイベント告知です。映像学部のホームページのほか Facebook や Twitter で宣伝。また、キャンパス周辺や京都駅付近の飲食店にもチラシを置いてもらったことで、今回の初日来場者数は昨年の3倍のばりしました。

僕個人は卒業作品として、人間の「裏と表」をテーマに実写映画を制作しました。数年前、タイガーマスクの主人公「伊達直人」を名乗る人物からの

贈り物が全国の児童養護施設で多発したニュースをヒントに、人の善意の裏にある行動を映像化しようと思いました。コンセプトを形にする難しさと楽しさを改めて感じました。

ともあれ今回のイベント運営を通し、作品を多くの人に見ていただく「仕掛けづくり」と「チームワーク」こそがプロデュースの真髄だということを知りました。こうした大学での経験はすべてテレビ局での仕事に活かせるものばかり。今後も作品を作り続けるとともに、仕事のなかでさらにプロデュース力を磨いていきたいと思います。

卒業生 voice



池田佳史郎さん
映像学部 2013年3月卒業
立命館大学大学院 映像研究科に進学

1年と2ヵ月を詰め込んだ16分間のドキュメンタリー

僕は自分の出身地、鹿児島県の伝統工芸「大島紬」を織る職人のドキュメンタリーを制作しました。衰退しつつある伝統工芸の世界で、技術を受け継いでいく職人たちの心情を映像で伝えたいという思いからです。撮影期間は1年2ヵ月。苦労したのは、初対面の方とコミュニケーションを図りながらリアルな生活をいかに撮影できるかということと、膨大な量の映像編集でした。編集中は「もっとこんな映像を撮ればよかった」と後悔の連続。「ありのまま」を伝えるということの難しさを学ぶとともに、どんな映像が何を感ぜさせるのかということ、人が社会を見る視点の本質にも迫ることがで

きたと思います。苦難の末に生まれたのが約16分作品。今までにない達成感を得るとともに、さらに映像の世界を追究したいと思うようになりました。



上映会場ではスタッフ
が上映中の作品をご案内



観客からは、1作品ごとに
大きな拍手が送られた



作品上映後は、制作者が作品
に込めた思いを語った



三重県のお祭を追った
ドキュメンタリー「人喰い
鯨船」

粉になりたい少女

教員 voice

学生たちに鍛えてほしいのは、制作力と社会性のバランスです

作品を世に送り出すところまで含めて「作品制作」だと私は考えています。ものづくりに取り組む際、しばしば「作る」ことだけに満足してしまいがちですが、どんな人にどのように届けるのか、先々を見据えたビジョンがあってこそ映像作品は輝きます。映像学部には、映画やテレビ、CM などさまざまな分野のプロが教員として在籍していますが、プロは必ず商品となる映像と社会との関わりを考えた上でプロジェクトを進めます。そのような「プロデューサーマインド」を経験豊富な指導者に、また実践を通して磨けるのが映像学部のポイントといえるでしょう。この映像展も映像の総合力を高める貴重な学習機会です。

私のゼミでは実写映像を制作しており、知識や技術はもちろん、人間性や社会性を鍛えることを重視しています。というのも、映画制作はとてもストイックな作業だからです。「シナリオ制作→撮影→編集」が作

品制作の大まかな流れですが、なかでもシナリオ制作はとても重要で「何を、どのように表現したいか」を何度もブラッシュアップし、テーマを明確にしていきます。また、撮影は一人で行うことはできません。役者や撮影先の人々の協力が不可欠ですし、大掛かりになればカメラや照明などのスタッフも必要です。多くの人や社会と関わりながら自分の表現したい世界を作っていく映像学部は、まさに社会性が育まれるステージなのです。

私のゼミの卒業生は、映画、CM、放送などの制作に携わるほか、一般企業でもプロデュース力を発揮しています。現場や学内外での多様なコミュニケーションのなかで培われた社会性は、社会のどんな分野でも活かせる強力な武器となっています。



藤岡幹嗣
映像学部准教授
映画(フィルム)撮影技術にて大阪芸術大学大学院(映画・映像)を修了。専門分野はリアリティ映像制作。現在もドキュメンタリー作品の制作に携わるほか、ビデオによる記録映像や表現映像などの制作にも取り組んでいる。

ゼミ生作品 Pick up



シッポのある少女の成長を描いたファンタジー映画「My Dearest Tail」、大学生を主人公にした青春映画「タンバリンマン」、1分40秒の恋物語「h.u.g」など、個性的な全18作品が上映された。

世の中をおもしろくする、映像テクノロジーの可能性

映像学部で学べる「映像」は幅広く、ドラマや映画の制作、ゲームのプログラミング、バーチャルリアリティを用いたメディア制作など、学生たちはさまざまな理解と技術を学び、作品を作っています。

なかでも私のゼミでは、コンピュータプログラミングなどの映像テクノロジーを用いて新しい表現を追究する「インタラクティブ・メディア」の研究に取り組んでいます。例えば、2012年度卒業生が制作した「募金の流れを可視化する試み」『visible box』。募金箱にお金を入れると、「子ども25人分の鉛筆@カンボジア」といったメッセージが表示され、募金がどのような支援に活かされるのかを募金者にわかりやすく伝えます。これを制作した学生は、「募金したい気持ちはあるけれど、実際にどんな支援に活用されているのかわからない」という自分のなかの「不信感」に注目し、安心して募金に参加できるシステムを創造しました。

こうした研究で大切なのは、観察力と発信力です。まずは、日常生活のなかで感じた「おもしろい」「不思議」「違和感」について観察し、果たしてそれは自分だけが感じるものか？多くの人が感じていることなのか？といった「社会」から見たニーズを分析していきます。その上で、「おもしろい」や「不思議」を他者と共有したり、「違和感」を解消したりする方法をコンピュータによる映像テクノロジーを用いて表現していくのです。私は学生に「社会のどんな問題を映像で解決できるのか」といった俯瞰的な視点を持って研究に取り組むよう指導しています。「観察→分析→発信」する力を磨き、高杉晋作の言葉『面白きことも無き世を面白く』を実践していけるような人間育成を心がけていきたいと思っています。



望月茂徳
映像学部准教授

筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻博士課程単位取得退学。博士(工学)。2007年より立命館大学映像学部専任講師に着任し、2011年から現職。メディアアートなど、映像の表現技術への可能性を追究している。

ゼミ生作品 Pick up

募金の流れを可視化する試み / 'visible box'

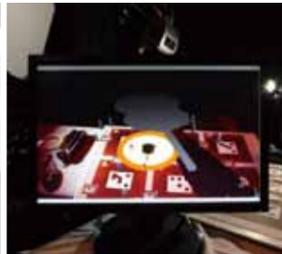
音楽ポスト

明滅との対話 / '明滅との対話' (インスタレーション)

手紙を入れると音楽が流れる「音楽ポスト」は介護施設で活用。明滅する街灯に感じた擬人的な存在感を追究した「□□□□□□」「○○○○○○」は、明かりと人間の関係を紐解く新たな試みだ。



振動、風、音響を駆使した臨場感のある映像を体験



カメラをつけると現実空間にバーチャル兵士が登場!



触れあうと音楽が流れる、皮膚接触センサーを利用した作品



遊び感覚で画面内の仕掛けを探すゲーム絵本



堀田亮介さん

映像学部 2013年3月卒業
立命館大学大学院 映像研究科に進学

直感的に操作できる新しいエンタテインメントを追究

映像学部には、国内外のコンテストに積極的に参加する文化があります。僕は3年生時のゼミでフランスのコンテストに挑戦し、「銃型コントローラーを使ったシューティングゲーム」が入選しました。フランスへ行き、海外の方々にゲームを体験してもらったなかで、説明がなくても誰もが直感的に操作できるゲームをつくりたいと思うようになりました。卒業制作ではその経験を活かし、サイボーグに変身できるゲームを制作しました。ヘッドマウントディスプレイを装着して攻撃のポーズを取ると、バーチャル映像で自分の指先や胸からミサイルを発射できます。ジェスチャーで感覚的に操作でき

るシステムには、ゲーム以外にも暮らしを楽しく快適にするヒントが詰まっていると感じています。大学院での研究もさらに力を入れて取り組みたいと思っています。



山崎由佳さん

映像学部 2013年3月卒業
株式会社ビジュアルに就職

高度なCG技術を身につけ、プロのクリエイターへ

高校生の頃からCG技術に興味がありました。総合大学で他学部の学生にも刺激を受けながら専門的な映像の知識を学びたいと思い、立命館大学に入学。映像学部の魅力は、先生と学生との距離が近く、何でも相談できる環境にあります。ゼミ以外の先生も私の興味ある分野を知ってくださっていて、授業外にCG作品の話で盛り上がることもめずらしくありません。また、映像制作の分野で活躍する卒業生が多く、そうした先輩からアドバイスをもらい、2年生時からは授業以外でもCG作品の制作に取り組んで技術を磨きました。卒業制作はその集大成。水墨画のCGアニメーション

を制作し、炎や水、煙などの動きの表現にこだわりました。身につけた知識と技術が認められ、広告制作会社でCG技術を活かすという夢をかなえることができました。



見ているだけじゃ
もったいない
触って、遊んで、
楽しもう!

体感する映像学部の世界

五感を刺激する表現によって新しい「経験」を提案する、映像の可能性に挑戦した作品の数々。老若男女を問わず楽しめる力作に、会場のあちこちで驚きの声が上がりました。ここでは、画期的なアイデアを形にした体験型映像作品や展示作品の一部をご紹介します。

MR-Cyborg Soldiers

現実とバーチャル空間を融合させた新感覚の作品。アニメのようなサイボーグに変身できるアトラクションです。

1

ヘッドマウントディスプレイを装着

2

両手を広げてシステム起動

3

攻撃のポーズで右手から砲弾発射!

Phantom Glider

ボード型の操縦インターフェースに乗り、重心移動と手を上下に動かす操作だけでバーチャル空間を自由に飛び回ります。

世界観は天空都市・マチュピチュ

重心移動で前後左右、手を上げて移動速度UP!

TacticsUnion

チェスをベースとしたデジタルゲーム。プレイ中に「視点」を真上、斜め、駒目線へと切り替えながら対戦を楽しめます。

開発者が丁寧に使い方を解説

駒の視点。対戦する駒の表情も楽しめる

チェス盤を斜め上から見た視点

真上からチェス盤を見下ろした視点

Text Level of Detail

スマートタブレットで画面をズームすると「文字が大きくなる」のではなく「詳細な内容」が表示される新しいタイプの電子書籍です。

ズームアウト→物語のあらすじを表示

ズームイン→言葉や文章の詳細情報を表示

部活動 & サークル Watching

第1回

立命館大学には、何百種類もの部活動&サークルがあります。このコーナーでは世界で活躍を見せる実力派から独自路線をいく個性派まで、さまざまな団体の活動を紹介していきます。第1回目は日本、そして世界でNo.1に輝いた、今注目の部活動&サークル取材しました。

囲碁研究部

【部員数】65人(男50人:女15人) 【活動場所】衣笠:学生会館4F/BKC:エポック(月木)、リンクスクエア2F和室(火水金) 【活動時間】月~金、主に午後 【雰囲気】囲碁をまじめに、楽しく 【目標】全日本大学囲碁選手権の2連覇 【PR】個性的な部員と一緒に、囲碁だけではなくさまざまな興味を深められます!



楽しみながらも目指すは日本一連覇!

「第56回全日本大学囲碁選手権」で3年ぶりに優勝を果たした囲碁研究部。個人の大会でも二冠に輝く実力を誇ります。ほとんどの部員が週3回以上は部室に足を運び、対局や戦術の研究を重ねていますが、部室の雰囲気はいたって和やか。また囲碁の本場である韓国や中国に遠征して現地の学生と対局したり、国内で子ども囲碁教室のボランティアを行うなど、囲碁を通じた交流も大切にしています。



左/韓国合宿で現地学生と下/衣笠部室



上/昨年の全日本大学囲碁選手権表彰式の様子 左下/対局中の部長呉さん 右下/早稲田大学との全勝対決を制した選手権の対局表

部長からひと言

大学に入学できたのも囲碁のおかげなので、何か貢献できればと部長を務めています。今後は海外で合宿するだけではなく国際大会にも出場し、囲碁でより国際交流を深めていきたいです。

呉 理沙さん
国際関係学部3年生



ダブルダッチサークル Fusion Of Gambit

【部員数】25人(男16人:女9人) 【活動場所】ラルカディア 【活動時間】全体練習は月水18:15~ ※チーム練習は随時 【雰囲気】アットホーム 【目標】世界大会連覇とダブルダッチの普及 【PR】誰でも舞台上で輝けます!



チームワークと個性を発揮し今年も世界一に輝きたい

10周年を迎えた Fusion Of Gambit は、一昨年の世界大会で準優勝、昨年は優勝を果たしました。ダブルダッチはスピードや技だけではなく、衣装や音楽などの演出も重要な要素。そのコンセプトが高く評価されている Fusion Of Gambit は、連覇に向けてどう見せていくかを日々チーム内で話し合っています。また大会やコンテストに追われる一方、地元の小中学校や地域のイベントなどで子どもたちにダブルダッチの魅力を伝える普及活動にも力を注いでいます。



左、下/授業の空き時間にも自主練習



上/昨年の世界大会で優勝した現在4年生のチーム「我」 左下/小学校での指導風景 右下/連覇が期待される3年生チーム

サークルを代表してひと言

それぞれのチームカラーがはっきりにしているのが、このサークルの強み。まずは自分自身が楽しむこと、そして観ているお客さんにも一緒に楽しんでもらえることを目標に頑張ります。

小宮 由紀さん
スポーツ健康科学部3年生



学生イベント&スポーツ

SPORTS

【問い合わせ先】スポーツ強化センター:075-465-7863

スポーツ関連団体の主な成績(2013年4月~6月)

団体名	開催日	成績
相撲部	4月21日	第1回国際女子相撲選抜大会個人戦中量級で山中未久さん(スポ健2)が準優勝、重量級と無差別級で稲葉映美さん(スポ健1)が3位
	5月12日	第14回全国女子選抜相撲大会中量級で山中未久さん(スポ健2)が優勝、重量級で稲葉映美さん(スポ健1)が準優勝
女子陸上競技部	4月21日	第61回兵庫リレーカーニバル女子10,000mで津田真衣さん(経営3)が5位(学生トップ)(7月にロシア・カザンで開催される第27回ユニバーシアード競技大会の代表に内定)
	5月9日~12日	第90回関西学生陸上競技対校選手権大会女子10,000mWで前田浩唯さん(経済4)が優勝、女子400mHで王子田萌さん(スポ健2)が優勝、女子5,000mで藪下明音さん(経営4)が優勝、女子10,000mで津田真衣さん(経営3)が優勝、女子陸上競技部が総合優勝
男子陸上競技部	5月9日~12日	第90回関西学生陸上競技対校選手権大会男子円盤投で堀江省太さん(スポ健2)が優勝、男子110mHで三田恭平さん(経営4)が優勝、男子10,000mで濱野秀さん(理工2)が優勝、男子陸上競技部が総合3位
卓球部男子	5月5日~12日	平成25年度春季関西学生卓球リーグ戦で優勝(9年ぶり21度目の優勝)
卓球部女子	6月27日~30日	第83回全日本大学総合卓球選手権大会女子(団体の部)で3位(5年ぶり4回目の入賞)
弓道部	5月25日、26日	第57回関西学生弓道選手権大会男子団体が優勝(12回目5連覇)
準硬式野球部	5月19日~6月8日	平成25年度関西地区大学準硬式野球トーナメント大会で優勝(第65回全日本大学準硬式野球大会に第4代表で出場決定)
自転車競技部	5月11日、12日	第33回西日本学生選手権トラック自転車競技大会のポイントレースで前園浩平さん(経済4)が優勝
	5月26日	第49回西日本大学対抗選手権自転車競技大会のロードレースで前園浩平さん(経済4)が優勝
ホッケー部	6月21日~25日	第32回全日本大学ホッケー王座決定戦で男子が優勝(3年ぶり4回目)、女子が第3位
	6月1日、2日	2013年度関西学生ホッケー春季リーグで女子が優勝
ソフトテニス部男子	6月29日	西日本学生大学対抗ソフトテニス選手権大会男子団体が優勝

CULTURE/ART

【問い合わせ先】学生オフィス:075-465-8167

文化・芸術関連団体の主な成績(2013年4月~6月)

団体名	開催日	成績
かるた会	5月12日	第51回西日本新聞社杯小倉百人一首団体対抗かるた選手権大会D級でかるた会Bチームが準優勝、A級でかるた会Aチームが4位
囲碁研究部	5月18日	女子学生本因坊戦関西予選で堀本範子さん(産社4)が優勝、星さゆりさん(経営2)が準優勝、板倉青葉さん(国関3)が3位、呉理沙さん(国関3)が4位(女子学生本因坊戦への出場が決定)
Windward	6月1日、2日	2013琵琶湖マリンカップ(京都滋賀国体予選)国体ウインドサーフィングクラス(男子)で板底雄馬さん(スポ健3)が準優勝
ヨーヨーサークルトリックルーム	6月1日、2日	2013年全日本ヨーヨー選手権大会(Japan National Yo-Yo Contest 2013)1A部門で徳淵皓要さん(薬4)が優勝



父母教育後援会の支援により 大阪梅田キャンパスを拡充!



2013年3月、「立命館大阪梅田キャンパス」と名称変更した大阪のキャンパスに、就職活動専用のフロアが設けられました。父母教育後援会の支援により充実した設備を整えた新しい施設の様子、そこで働く職員と利用する学生の声を紹介します。

● DATA ●
〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4
大阪富国生命ビル14階
月～金 9:30～17:00
TEL 06-6360-4893



大阪での就職活動を効率的にし より多くの学生が利用しやすい施設へ

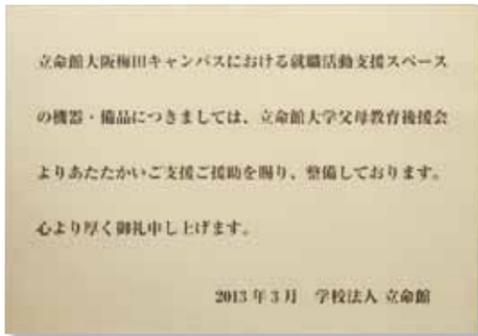
大阪駅、梅田駅から徒歩5分以内のアクセスの良さを誇る大阪梅田キャンパスは、以前は同ビル5階にある大学院のキャンパスを衣笠、BKCなどの学生の就職活動にも利用していましたが、就職活動専用のフロアを14階に新設しました。

新フロアは全面ガラス張りの開放的な室内で、就職活動の学生のためのさまざまな設備が整えられています。自習するための空間だけでなく、パソコンや席数も以前の5倍に増え、大学に寄せられた企業の最新情報など就職活動の資料も豊富に揃っています。また個別指導や模擬面接なども実施しており、就職活動の合間に有効的に活用できます。その他フィッティングルームやキャリーバッグ用のラックなど、夜行バスで遠方の就職活動地へ出向く学生にも使いやすいよう整えられています。

大阪梅田キャンパスでは、学生のみなさんをはじめとして利用される

方々のさまざまなニーズやご要望を把握しながら、常に一步先を行くサービスや環境の提供を実現することが大切だと考えています。今回の拡充移転は、父母教育後援会の多大なご協力をいただいたからこそ実現することができました。今後も関係者の方々とともに歩み、成長していくという視点を大切にしていきたいと考えています。

(大阪梅田キャンパス職員 後藤元吾さん)



大阪梅田キャンパスの就職支援を紹介!

●パソコン・インターネット環境の整備

就職活動用に50台のパソコンを設置。無線LANおよびWi-Fiも整備されており、持ち込みのパソコンやタブレット、スマートフォンも快適に使えます。



●予約制模擬面接の実施

外部講師を招いて模擬面接を行っています。本番に臨む前に面接のマナーや自己PRのコツなど、面接のノウハウを得ることができます。面接になれるために利用する学生もいます。



●窓口相談による個別就職支援

自己分析やエントリーシート の書き方、面接の受け方など、就職活動に関するさまざまな相談を個別に受け、指導を行っています。窓口では履歴書や封筒を購入することもできます。



●ロッカーとフィッティングルームの設置



約20個のロッカーとフィッティングルームを備えています。キャリーバッグも預けられるため、遠方への就職活動の中継地点としても利用しやすい環境です。



就職活動で利用しました!

ここでは新聞を読んだり、パソコンで企業を調べたりしています。仲間と就職活動の情報交換をするなど、交流の場にもなっています。



情報理工学部5回生

5階にあったときの自習室は仕切られていて閉塞感がありましたが、14階の施設は開放感があり、眺めも素晴らしいですね。



文学部4回生

今日は支店訪問で大阪に来たので寄りました。就職活動の合間に勉強したり本を読んだりするのに、完璧な空間だと思います。



経済学部4回生

企業説明会は梅田で開催されることが多く、梅田駅に近いこの施設は利用しやすいです。面接指導が受けられるのも嬉しいですね。



産業社会学部4回生

今日は内定した企業の方と会うために大阪に来ました。就職活動のときはよく利用していましたが、のびのびと自習ができました。



理工学部4回生

立命館大学父母教育後援会表彰制度

2012 年度受賞者一覧

立命館大学父母教育後援会表彰制度設置趣旨ほか

立命館大学父母教育後援会では、毎年、主に正課に関わる分野で著しい成果をおさめた学生・団体を奨励し、広く内容を公表することにより、学生が意欲的に目標に向かって研鑽する環境づくりに貢献することを目的として表彰制度を実施する。

1. 表彰の種類

- 1) 学部長最優秀賞 個人・団体 (奨励金 20 万円)
- 2) 学部長優秀賞 個人・団体 (奨励金 10 万円)
- 3) 学部長教育賞 個人・団体 (奨励金 5 万円)

2. 表彰対象

2012 年度に在学または留学している学部学生で、他の学生の目標となる成果をおさめた個人・団体。

3. 選考基準

創造的・个性的な取り組みや、優れた成果をおさめた取り組みを対象とし (他の学生の模範となるような取り組みを厳選)、各学部にて基準を設定する。

4. 募集と選考時期

- 1) 募集の方法および募集時期は各学部で決定する。おおむね、1 年間の活動の成果が出揃い、選考可能な 1 月末を目処に行う。
- 2) 選考は 2 月末を目処に各学部の選考委員が行い、父母教育後援会で審議、決定する。

5. 表彰式

- 1) 2013 年 3 月卒業該当生は、各学部にて卒業式当日に実施する。
- 2) 2013 年 3 月卒業該当生以外は、各学部にて在学生在が多数参加する行事にあわせて実施する。

6. その他

表彰者名、表彰団体、表彰内容について父母教育後援会会報に掲載する。

漆畑ひろ江 (3) 名誉毀損の「真実性・相当性の法理」における「相当性の抗弁」の是非—誤報された被害者の視点から—

本田 泰大 (3) 救急救命士の処置と違法性

川嶋紗由美 (3) 現代の奴隷制 ～日本における人身取引～

神谷紗緒里 (3) スペイン語検定 3 級合格

林 佑一 (4) 生産方法の推定規定 (特許法 104 条) の趣旨の検討

米谷 斗志 (4) 役員の横領行為に係る課税関係—東京地裁平成 19 年 12 月 20 日判決からの検討—

川村 晋策 (4) 今後のわが国の通商政策と国際租税法の課題

中村 朋代 (4) 戦後補償問題 —条約による個人請求権放棄の限界性—

産業社会学部

◆産業社会学部長優秀賞 (卒業論文の部)

金澤 菜摘 (4) 新聞の読者投書欄から見た現代の若者 ～若者の主張とは～

大門 知樹 (4) アクセントの生成と変容 ～隠岐方言にみるアクセント研究～

中原 大智 (4) 社会的アイデンティティと個人的アイデンティティの関係～「大学生」と「価値観」に関する考察～

松田 彩希 (4) 与謝郡伊根町本坂地区のコミュニティ維持についての研究～高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるために～

◆産業社会学部長優秀賞 (公募論文の部)

最相 寛一 (3) いかにして社会保障の機能不全を理解するのか ～社会保障の機能不全に関する理論的検討と「社会保障と税の一体改革」の本質～

竹本 悠 (4) 岩井克人『貨幣論』の可能性～「価値形態の循環論法」批判と『貨幣論』の思想的背景の検討～

西尾 太一 (3) 島田 嶺央 (3) 今泉 公佑 (3) 高橋 綾香 (3) 社会問題への意識向上における公共広告の送り手選

上村 美里 (3) 東 友香 (3) 折の研究 古岸 里恵 (3) 横山 幸平 (3) 津田 夏希 (3) 中浦 沙弥 (3)

石田 友紀 (3) 永田健次郎 (3) 日本におけるメディア・リテラシーの実践 岩佐 瞳 (3) 瀧本 早紀 (3) ～海外のメディア教育を手掛かりに～

北浦 大介 (3) 堀川みのり (3)

◆産業社会学部長優秀賞 (活動の部)

奥村 俊樹 (4) 3・11 から被災地と向き合って ～『2012 年「地方の時代」映像祭 市民・自治体・学生部門』優秀賞の授賞～

田中みのり (3) 久保友里絵 (3) 本能学区 まちのえんがわ大作戦 福山沙綾香 (3) ～えんがわカフェ活動記～ 衣川 史歩 (3)

◆産業社会学部長教育賞 (卒業論文の部)

高橋 史典 (4) 日本における次世代型公共交通を考えた上での LRT の可能性について～フランス・ドイツ・オランダの LRT から学ぶこと～

武田 悠希 (4) 現代日本社会におけるスポーツ労働移民と国民意識に関する一考察～大相撲における外国人力士に関するメディア分析を中心に～

鳥羽 美紀 (4) SNS～閉ざされた部屋～ ～若者のソーシャル・ネットワークキング・サービス利用動向からみるコミュニティ形成～

平田 麻衣 (4) 「尊厳ある死」の実現 ～尊厳死法は私たちの尊厳を守るのか～

水谷 仁美 (4) 母子家庭とシングルマザーの就労に関する日本・韓国の福祉政策比較

村田 駿介 (4) フットボールガバナンスの可能性と限界～スペインサッカーを例として～

森内 佐織 (4) 障害のある子どもを育てながら働く母子家庭への支援～ケアする人のケアに向けて～

山下美深香 (4) メディアから見る「京都」

山谷美智留 (4) ソーシャルテレビと視聴者の相互作用の研究～NHK「NEWS WEB 24」における政治報道のテキスト分析から～

奥富 萌野 (4) 教育現場におけるユーモア活用に向けての課題 岡山 黎子 (4) ～教員養成課程学生のユーモアに対する意識から～

星野 徳行 (4) 木下 昌也 (4) 本能まちづくり委員会とは何だったのか 足利美美佳 (4) 中川 文恵 (4) ～活動 12 年と解散後 1 年の本能から地域が動く理 落合 祐貴 (4) 村主 和也 (4) 由を解き明かす～

◆産業社会学部長教育賞 (公募論文の部)

島 賢伍 (2) 石田町久喜触の御詠歌からみる共同体維持における女性の役割

中西 雅典 (2) 久喜における儀礼交換と共同体の維持

大本 啓介 (3) 広島県の教育格差 ～教育を受ける機会の不平等～

岡本 征大 (3) 久喜にみる多層的共同体と前近代的家族観の関係

小野 悠理 (3) 若者の自立 ～親子の甘えによる自立への影響～

佐々木麻衣華 (3) 血液型はどれほど重要? ～血液型とコミュニケーション～

杉本 大昂 (3) なぜ文化階層の低い家庭の子どもの「学力」が伸びにくいのか

齋藤 早貴 (1) 藤田 実邑 (1) 孤立死の現状と対策について 尾崎 亮太 (1) 松本 愛 (1)

谷口新太郎 (3) 東日本大震災の復興の課題と提案 ～宮城県での現地調査を通して～ 鹿渡 英樹 (3)

秋元香奈子 (3) 木田さやか (3) 地域の中での高齢者の買い物の現状と課題 西浦 望 (3)

辻川明日香 (3) 北村なつき (3) 無能な体育教師でも、子どもたちは出来るようになる! ～そして、教員採用試験を考える～ 橋 聡生 (3)

片野 杏奈 (3) 中村 早希 (3) 立命館大学 (衣笠キャンパス) 女子体育会における 川原 梓央 (3) 安田 若菜 (3) チームの雰囲気特性とバーンアウトの関係について

佐之井久也 (3) 辰己 大貴 (3) 地域にいかに人を呼びこむのか 高木真由子 (3) 宮下 朋子 (3) ～海士町の取り組みを通して～

◆産業社会学部長教育賞 (活動の部)

波多野 愛 (1) 須川 周平 (1) 立命館大学のバリアフリー化をすすめるために 泉尾 光毅 (1) 宮崎 千尋 (1) 「視覚障害者のためのバリアフリー設備について」

国際関係学部

◆国際関係学部長優秀賞 (卒業論文の部)

青木 真之 (4) 「保護する責任」とその慣習国際法性に関する一考察—2005 年世界サミット以降の動向を中心に—

八木 裕美 (4) 水道事業民営化と住民参加に関する考察

◆国際関係学部長教育賞 (卒業論文の部)

岡田 二郎 (4) 独立後の南スーダンにおけるコミュニティ内 (Intra-communal) 紛争について—レイク州イロルでの「伝統」とその変容から—

菊池 朋之 (4) 冷戦前期におけるレジーム形成と宇宙開発～米ソ安全保障レジーム形成過程と宇宙開発発展過程の相互作用～

木田 一弥 (4) 日本のエネルギー転換と太陽光発電—持続可能な社会の形成に向けて—

原 祥子 (4) 途上国開発における ICT 活用の意義と現状—必要不可欠なインフラとしての機能の観点から—

宗貴 紀子 (4) アメリカ先住民 自立への道 ～カジノ経営を越えて～

◆国際関係学部長教育賞 (自由研究の部)

井上裕美子 (3) 紛争後社会の再出発としての真実和解委員会—コンゴへの設置の可能性を検討する—

◆国際関係学部長教育賞 (基礎演習ゼミナール大会の部)

Timothy SEE Wen Hao (1) CUNNINGHAM Curran Boleslaw Eugene (1) 基礎演習ゼミナール大会 優勝 『EDUfacture』 池添由佳子 (1) LEE Hyeon Woo (1) GOH Qian Ying Jasmine (1)

青木 悠香 (1) 高 佳英 (1) 基礎演習ゼミナール大会 準優勝 「20 年、希望の歴史」 戸田 有紀 (1)

◆国際関係学部長教育賞 (オープンゼミナール大会の部)

上田実加子 (3) 田中 早苗 (3) 第 13 回オープンゼミナール大会 優勝 鬼束 奈桜 (3) 藤村枝里子 (3) 『イランにオネエはいらん!?』 桑野 明恵 (3) 江本 珠理 (4) —ほんとは怖い? グローバルスタンダード!— 関口 咲子 (3)

池邊 智基 (3) 第 13 回オープンゼミナール大会 準優勝 田中健二郎 (3) 『Occupy All Streets—平等主義からみるヒップホップとウォール街占拠—』 阿津坂祐貴 (4)

川瀬 宏平 (1) 太田 元州 (4) 羽根 飛鳥 (1) 小倉 祐輔 (4) 市橋るみえ (2) 木村 直貴 (4) 第 13 回国際関係学部 オープンゼミナールの運営 川島 綾香 (2) 竹内 宏和 (4) 天地 智彦 (4) 八木 裕美 (4)

政策科学部

◆政策科学部長優秀賞

赤瀬 恭子 (3) メタデータを用いた地域情報蓄積・共有システムの提案—地域猫を対象に—

岡本 雪乃 (3) アメリカの覇権と共和主義思想

本田 純一 (2) 玉置晋太郎 (2) 尾仲 美紀 (2) 西川 愛 (2) 川南 雅裕 (2) 松倉 京香 (2) 中国市場における日本企業の現地ブランド構築の研究—資生堂のブランド戦略を事例として— 河村 萌 (2) 丸谷 菜里 (2) 小林 愛実 (2) 壬生 貴大 (2) 城 若菜 (2) 吉田由佳梨 (2) 田中 桃子 (2)

山下 祐馬 (3) 中山 慶美 (3) 重要伝統的建造物群保存地区における空き家管理方法の考察 高井雄一朗 (3) 三輪 直也 (3) ～熊川宿地域住民による参画管理の可能性～

◆政策科学部長教育賞

當麻 晃弘 (1) 社会保障制度を守るために ～高齢者雇用の視点から～

石丸 明穂 (3) 「教育行政の政治的中立性」に対する検討—どのように中立性が保たれてきたか—

小林 由実 (3) アマチュア文化におけるアーツ・マネージャーの役割

佐藤 陽 (2) 清水 博美 (2) 奥川 慶之 (2) 中西 健太 (2) 小森 愛子 (2) 拜郷あすか (2) タイにおける持続的なエビ養殖に関する研究 笹田 幸佑 (2) 宮田 佳歩 (2) 島村美都希 (2) 山下 諒二 (2)

阿川 優花 (3) 角田 正冬 (3) 店舗集積による空き家活用の促進 田中祐太郎 (3) 出口わか (3) ～福井県若狭町熊川宿をフィールドとして～ 袖川みずき (3) 西田 惇平 (3) 東日本大震災からの産業復興—宮城県七ヶ浜町に 谷出 迅 (3) 松井 南実 (3) における 6 次産業化の取り組みを事例に—

下田みのり (1) 外国語作文コンテスト「英語部門」優秀賞

五十嵐真帆 (2) 外国語作文コンテスト「フランス語部門」優秀賞

富康 太吾(2) 外国語作文コンテスト「ドイツ語部門」優秀賞

山村 芹加(2) 外国語作文コンテスト「中国語部門」優秀賞

文学部

◆文学部長教育賞（卒業論文優秀表彰）

石井 優里(4) カントの「嘘」と約束における問題

田中 勇記(4) マルティン・ブーバーを読む ―「我と汝」をめぐって―

大川 美里(4) 中学校における生徒の居場所となる学級
―問題行動から担任の役割を考える―

藤井 彩夏(4) 宮沢賢治「オツベルと象」論 ―関係の成立と崩壊―

政 映里(4) 平林たい子「殴る」論

柴田 翼(4) 祭祀と祭文

田中 京(4) 杜甫の交友

山崎 遼(4) A Study of Francis J. Child's *The English and Scottish Popular Ballads*

前田ひかる(4) ハリー・ポッター・シリーズにおける死生観の考察

霜山 雄也(4) 助動詞とその適切な使用法

中西 覚(4) 近世中期における庚申信仰の展開と宗教政策
―武蔵国樺澤郡を中心に―

西崎 正成(4) 織田信長の「天下」

箕輪 真純(4) 中世後期の出産儀礼 ―武家を中心に―

田玉 優子(4) 中国古代における遷徙 ―その性格の変遷について―

丹田 美秋(4) ブリティッシュネスと戦後の記憶形成
～第一次世界大戦の経験を通して～

中垣 暹(4) 12～13世紀のシチリア王国におけるイスラム教徒の消滅をめぐって

岡本 啓介(4) 那覇市識名霊園周辺における墓地の形成過程

濱島 優大(4) 東海三県における冬の地上風系 ―気圧配置と地形に関連して―

中村 英継(4) 地場産業が地域に及ぼす影響の変化について
―兵庫県たつの市の素麺業を事例に―

佐藤 里弥(4) マーガレット・ミッチェルの描いたアメリカ南部
―ジェラルド・オハラの葬儀における喪失と語り―

清水 藍(4) 15世紀から17世紀における、ヴェネツィアの貴族階級社会について
―貴族階級からみる 商業国家から文化国家への変貌―

出口 智美(4) 「平等」の先に開かれた社会 スウェーデンにおける女性の社会進出
をめぐって

松本 尚子(4) テレビが左右する大統領選挙
―米ニュースの役割と影響についての歴史的見解―

上 一音(4) The Influence of the Brand Name on a Product Choice

渡邊友理加(4) 東日本大震災において被災地に派遣された救急隊員の心理的プロセスの検討

宮脇 万友(4) 実画像を用いた表情の感情的意味空間上における無表情の範囲の検討

高城 雅裕(4) 青年における心理的自立と動機づけ形成の関連
―主体評価と客体評価のずれに着目して―

鈴木 麻見(4) 明治期京都市美術界の“自立” ―京都博覧会における席上揮毫から―

野口 奈那(4) 京都市都心部における伝統行事の運営システム
―鯉山町を事例として―

中条 愛里(4) ダブルリミテッド児童に対する母語を使った教科学習支援の有用性

猪岡 叶英(4) 沖縄における長寿観の変遷と生年祝いの変容
―近世琉球王国の儒教化政策から風俗改良運動まで―

音村 珠未(4) 京都市内の参道狛犬について

高野 舞(5) アメリカに渡ったイタリア移民

◆文学部長教育賞（特定分野で力量形成、自己研鑽し成果を出している学生表彰）

稲葉 千秋(2) 「第29回 NHK 全国大学放送コンテスト」アナウンス部門第3位入賞

西部 百恵(2) 「第29回 NHK 全国大学放送コンテスト」朗読部門第3位入賞

児島 啓祐(3) 文学部ゼミナール大会 最優秀賞「中世地震観の解明」

宮原はるか(3) 災害復興支援ボランティアバス第5便代表
岩手県宮古市内仮設住宅での傾聴活動

加藤 友章(3) 全日本学生ドイツ語弁論大会出場 ドイツ語検定準1級一次合格

鳥豆 卓矢(4) 卒業制作：東日本大震災をテーマとする小説の制作
―「セメント樽の中の手紙」のオマージュから考察する「絆」―

徳永 大輔(4) 立命館大学ベンチャーコンテスト 最優秀賞「オーディエンス賞」と特別賞「野村イノベーション賞」の受賞

浅尾 野武(1) 藪 寛太郎(2)
新井 望美(1) 黒須 執作(2) 地理学研究会 徳島市とその都市圏に関する調査研究

前田 歩(1) 久保 匠(2)
中村 優介(1) 林 凌(3)

野木ももこ(1) 児島 啓祐(3)
堀井 真希(1) 永山 萌恵(3)
宇垣 琢朗(2) 野原 裕人(3) 日本文学会学生会部会「説話文学研究会」
神吉 絢子(2) 片山 沙織(3)
平松 美有(2)

荒木 隆宏(2) 田中 亮(2)
安藤 佳奈(2) 田村 陽(2)
池尻早耶香(2) 辻村 公亮(2)
岡田 美樹(2) 野田ななせ(2)
椛田 佳希(2) 橋本菜津美(2)

北山 若奈(2) 橋本 雅俊(2) 京都市考古資料館での企画展
「京都考古学探検隊―開け！過去の扉―」

車谷 有梨(2) 藤原 怜史(2)
佐藤 桂輔(2) 牧島 愛(2)
澤田 陽介(2) 松尾 美々(2)
澁谷 晃平(2) 森田 雅史(2)
角 早季子(2) 安原 葵(2)
妹尾 一樹(2) 山本 雅俊(2)
高野紗奈江(2) 吉村 洸祐(2)

酒井 綾子(2) 柴田 茉侖(2)
三浦 歩(2) 三隅 詩織(2)
渡邊あやな(2) 守山 晴香(2)
山下 真子(2) 井上 舞(2)
林田 泉美(2) 小山みいむ(2) 文学部エアスタディ副専攻（東南アジアコース）
マレーシア・シンガポールでの海外研修

鈴木 初(2) 小川 董(3)
西尾 善太(2) 鈴木 悠太(3)
額谷 侃(2) 大場 公恵(3)
田中 野枝(2) 河合 莉奈(3)
中村 佳正(2) 中島 恵理(3)

中島 綺音(2) 松岡 知世(3)
和田くるみ(2) 大西 里実(3)
加藤優衣子(2) 新谷 知美(3)
小池かなえ(2) 佃 美咲(3) 人文科学特別研修「子ども・青年の居場所づくりイ
ンターンシップ」

守山 晴香(2) 成瀬美哉子(3)
村田 有紗(2) 橋本 真人(4)
中島 利奈(3) 森田 美咲(4)
神野 彩子(3)

岡本 尚子(2) イノベーション副専攻ツーリズム・コース
ミステリーツアー「清姫旅～ココロとカラダの癒し旅～」を企画し
近畿地方整備局から奨励賞を受賞

梅沢 友希(3) 地域観光学研究会 観光フォーラム「はなやか関西」で奨励賞
鈴木 悠太(3) 地域観光学研究会 観光フォーラム「はなやか関西」で奨励賞
由谷 圭佑(3)

山口 晴菜(2) 塩崎 友貴(3)
山内さゆり(3) 西山 恭子(3) 人文科学特別研修「高齢者への心理的サポート
プログラムインターンシップ」

磯井 知子(3) 藤井 彩瑚(3)
上井 遥(3) 尹 榮淑(3)
佐々木彩乃(3) 稲垣 範彦(4)

井内美穂子(2) 文学部ゼミナール大会 学生審査賞
並井彩紀子(3) 「『樹木神話』～『宇宙樹』・『生命樹』が織りなす世界観～」

三ノ丸裕貴(2) 松永 安奈(3) NHK ラジオ第1「ラジオプロデュース」番組コン
テスト(12月)で2位[5分ぐらいでだいたいわかつた
気になれる源氏物語]

窪田 椎奈(3) 皆見 綾美(3) 地域観光学研究会「東北亜観光研究会 第2回大
学生国際発表大会」で個人発表し、全員が個人で奨
励賞を受賞

加藤 光穂(3) 由谷 圭佑(3) 地域観光学研究会「東北亜観光研究会 第2回大
学生国際発表大会」で個人発表し、全員が個人で奨
励賞を受賞

稲葉 里穂(3) 京都学応用研究Ⅱ 宇多野ユースホステルを起点とした「キョウノ
ヨリミチ」企画実施と情報発信

佐藤 翔哉(3) 青山真由美(3) 田前 宏樹(4)
石毛 絢子(3) 小田 美鈴(4) 研究活動 自主ゼミ「洛中洛外研究会」
水口 幹之(3) 住沢 杏子(4)
岡本 啓介(4)

岡安 洋介(3) 文学部エアスタディ副専攻（現代中国コース）
柳 知直(3) 現代中国を紹介する映像作品の制作

山本 明音(3) 東 亜佑美(3) 井上 未晴(3) 京都学応用研究Ⅱ「西之京瑞穂神輿（ずいきみこし）
石毛 絢子(3) 佐々木 結(3) 保存会のインターンシップ」

原 匡史(3) 山下 克志(3) 人文科学特別研修
原田 裕輔(3) 文 盛愚(3) 「国際航業株式会社インターンシップ」
松尾 真吾(3)

田口 祥子(4) NHK ラジオ第1「ラジオプロデュース」番組コンテスト(4月)で
柳 文仁(4) 最優秀賞「むちゃぶり就職面接」

◆文学部長教育賞（学部の教育活動に自主的スタッフとして積極的に貢献している学生表彰）

宇垣 琢朗(2) 永山 萌恵(3)
神吉 絢子(2) 野原 裕人(3) 日本文学会学生会部会「日本文学研修実行委員会」
平松 美有(2) 片山 沙織(3) 「伊勢・志摩」の企画・運営
児島 啓祐(3)

映像学部

◆映像学部長優秀賞

白石 賢史(2) NHK 主催コンテスト「ラジオをプロデュース！（全国第2位）」「ラ
ジオ oh!! プロデュース！（全国第2位）」、立命館大学生協主催「生
協 50周年記念キャラクターコンテスト（第3位）」での受賞など。

竹内 彩紗(3) ゼミ課題作品が、「第11回 JCF 学生映画祭 in Tottori」
準グランプリ受賞。

◆映像学部長教育賞

青井 泰輔(1) 福留 瞳子(1)
近藤千花子(1) 松村 旬時(1) 「プロデュース基礎演習Ⅱ」授業内でのプレゼン、
杉本 安秀(1) 村山 友理(1) 発表。
東堤 翔大(1) 申 旻澈(1)

雲下紗也子(2) 前田康太郎(2)
小久保千晶(2) 松田 茜(2)
柴田クマール 李 容現(2) 「映像制作実習Ⅲ」課題作品「子どもの作り方。」
アージュン(2) 石田 琢真(4)
辺見 洋介(2)

小島 裕(2) 柳 治佑(2)
野村 峻作(2) 金 旻玟(2) 「映像制作実習Ⅲ」課題作品「母のために」
朴 誠姫(2) 嚴 琮植(2)

経済学部

◆経済学部長優秀賞（論文部門）

入佐 孝憲(3) 多バラエティ戦略について -チューハイ業界における分析-

野田 梨紗(3) 第二世代遺伝子組み換え食品に対する消費者評価
-高栄養価と健康リスク、どちらをとる？-

磯部 隆文(4) 著作権におけるレコード会社とアーティストの利害関係に関する考察

堀川 秀之(4) 国際的事業再編に係る移転価格税制の一考察
- アドビ事件（平成20年10月30日東京高裁判決）を参考に -

黒澤 圭貴(3) 柴田 大介(3)
北角 光輝(3) 劉 頌光(3) 2次元モデルによる立地競争の分析
楠本 拓也(3)

足立 芽生(3) 北村 啓(3) 大学教育が就職に与える真の効果
岩田李香子(3) 瀧井 鞠子(3)

◆経済学部長教育賞（論文部門）

平河 大(1) 中国の経済成長 ～成長要因の分析～

近藤真由子(2) 地域の伝統産業を活かした新たな食文化が生み出す観光便益
- 宇治茶料理・スイーツの事例 -

隅田 智太(2) 九州新幹線の開業効果

園田 寛明(3) 2大プリンタメーカー間の異なる価格設定の要因

得能 稔(3) 中国の教育産業・教育政策と日本企業の中国戦略

江本 貴史(4) 産業別ポートフォリオを用いたCAPMの妥当性の検証

大西 剛平(4) 生活系ごみの排出要因ならびに手数料有料化の具体的効果に関する
研究 ～市別のパネルデータを用いた実証分析～

柳瀬なつみ(4) 高松市丸亀商店街の再生事業 ～民間主導の商店街・まちづくり～

大西 佑樹(4) コンパクトシティ実現のための税制

上原健太郎(4) 日本における初期イスラーム経済研究史 -リバーを中心に-

北瀬 太一(4) 高等工業学校が日本の経済発展に与えた影響 ～企業内での役割と
高等工業学校のカリキュラムを精査した時の一考察～

菅原 悠治(4) 日本におけるベーシック・インカム研究史 -2000年からの言説-

松下 博和(4) 地方都市・農村圏の産業政策の課題
-和歌山県・御坊広域圏の産業政策を中心に-

三河 真也(4) 組織再編税制についての一考察
-段階取引が行われた場合の適格要件を中心に-

中村 浩将(4) 国家間の技術流出に対する報復関税政策の効果

森田 美貴(2) 平井 大貴(2) 日本における企業の社会的責任と社会的責任投資の
利波亜里沙(2) 村上 貴洋(2) あり方について

河合 海至(3)

岡本 捺希(3) 企業の福利厚生制度が勤続年数に与える影響
八木かすみ(3)

杉村 美佳(3) 糸山 舞子(3)
小坪 彩花(3) 中澤 潤(3) 滋賀県の大学誘致による経済効果について
眞鍋 祐也(3)

木戸 雅也(3) きょうだい構成が教育年数に与える影響
大木 俊平(3) -子どもの質・量のトレードオフに関する実証分析-

宮本 貴洋(3) 政府の赤字削減政策と経済の発展・貧困についての動学分析
四方 亮(3) -2期間モデルを用いて日本の税制政策への警告-
鈴政 貴啓(3)

西村 光輝(3) 金田 拓也(3) カラオケ店の料金設定について
内生蔵嘉行(3) 高田 翔平(3) ～ゲーム理論に基づいた理論分析～
大西 健太(3)

◆経済学部長教育賞（外国語検定試験部門）

竹中ららら(3) ドイツ語検定2級

鶴木 翔(3) HSK6級

服部 邦彦(3) HSK6級

村山里南子(3) HSK6級

上垣 賢人(3) HSK6級

経営学部

◆経営学部長優秀賞（論文部門）

吉田 織恵(3) 中国で活躍するインスタントラーメン企業 康師傅

西山 聡志(4) 社外取締役及び、社外監査役が企業業績に与える影響

岡本 冴香(4) 新市場の展開と製品開発サイクルに関する考察
-耐久消費財と生活消費財を事例にして-

粟田 傑(3) 衝動買いとPB 購買を探る
山田 諒(3) -インスタア・マーチャンダイジングの視点から-

◆経営学部長教育賞（論文部門）

奥村慎太郎(1) 永井 幸久(1) サムスの国内外における経営戦略
鈴木 勇也(1) 萩本 颯(1) -マーケティング戦略の視点から-
安藤 雅人(1)

川上 真実(1) 樋口 裕典(1) 梅田における百貨店3社の経営戦略
鶴田 葉子(1) 大辻 博人(1) -「デバ地下」を販売心理の視点から-
小林 理恵(1)

高内 伸輝(1) 奥西 南子(1) 企業経営におけるデザインの価値
奥村 拓哉(1) 北村 光生(1) -ペットボトルの形の比較を例に-
紀田 睦美(1)

大久保一樹(1) 岩井 良(1) コンビニエンスストアにおける
高杉 健介(1) 平川 和磨(1) 持続的成長要因の分析

芳本 大樹(1) 細井胡菜実(1) 我が国の中小企業の中国進出における
川原 杏美(1) 渡邊 光貴(1) リスクマネジメント
清水智加史(1) -日本の「集団」を活かした企業市民権の獲得-

数土 航基(1) 竹田百合香(1) スポーツによる地域活性化
崔 準佑(1) 中田 大貴(1) -鹿島アントラーズの調査研究-
関根 裕史(1) 瀬戸口 奏(1)

金子明日美(1) 石見 静花(1) サービス業における人材育成の研究
奥井 里沙(1) 高 慧慧(1) -東京ディズニーランドのサービス・マネジメントを中心に-

大谷 雄太(2)	JIT と貸借対照表の整合方法
山口 真実(2)	小窪謙太郎(2)
大谷 知未(2)	人見 泰代(2) 伊藤ハムの不祥事が財務に与えた影響
岡 拓歩(2)	
中島 大輔(2)	中国における日系企業の差別化集中戦略と新興国市場戦略の
池田佳小里(2)	ジレンマの克服
麓 泰地(2)	- ダイキン工業の中国における空調ハイエンド市場戦略を中心に -
奥村 真歩(2)	篠田 尚樹(2) 日本企業、ES 獲得のためのマネジメント戦略
岩尾 健介(2)	森田 愛花(2)
音頭 和弥(2)	
福元 亮介(2)	日本のシェアードサービスの現状と課題 - 海外企業との比較研究 -
村井 七織(2)	
多那瀬友貴(3)	次世代農業のあるべき姿への挑戦 - 企業の公共性の視点に基づき -
粟花落己己(3)	
藤井 久実(3)	日本のインキュベータ施設は今後どう変革をすべきか - 日本発イノベーション・グローバル企業創出および国内におけるベンチャー・イノベーションの文化浸透のために必要な改革とは -
足立 龍飛(3)	生徒にとって最も適切な教授法 - 諸外国の例と生徒の実感からの Focus on-

河野 翔太(3)	時間割編成支援システムの試作
蒲生 幸樹(3)	海外派遣者の帰任再適応に関する一考察
木下 笠子(3)	- 生活要因からみる仕事への再適応 -
加藤 大樹(3)	
今脇 優花(3)	津田 海人(3) 日本の管理会計と企業組織
小笠原絵里(3)	辻森 貴大(3) - 原価企画、アメーバ経営からの考察 -
岸 知裕(3)	中西 文哉(3)
片山真由美(4)	日清食品株式会社の戦略ストーリー - 即席めん業界のバイオニア、その先にあるものとは -
澤岡 洋介(4)	クリプトン・フューチャー・メディアのビジネスシステム分析 -UGC ネットワークの構築-
砂子 佳久(4)	高速ツアーバスについて - その歴史と今後の方向性 -
上野 未央(4)	電子カルテ導入による効果と成功要因に関する分析
廣瀬 正典(4)	マレーシア市場におけるイオンの国際化戦略

川上 真央(4)	学びの共同体でいじめは減らせるか - 三重県尾鷲市立尾鷲中学校の試み -
岩本 光平(4)	日系企業における「人材の現地化」問題
守谷百合恵(4)	- 内なる国際化の視点から -
吉武浩一朗(4)	
高橋 勝成(4)	ソーシャルゲームのデザイン戦略 - 人気の秘密 -

◆経営学部長教育賞（外国語検定部門）	
野村 美波(1)	<中国語>新 HSK6 級 204 点
白木 琢人(3)	<中国語>新 HSK5 級 202 点
村田 侑子(3)	<英語> TOEIC 920 点
金 辰泰(4)	<英語> TOEIC 960 点
佐々木浩平(4)	<英語> TOEIC 940 点
内川 耀子(4)	<英語> TOEIC 925 点

理工学部	
◆理工学部長最優秀賞	
立花 京(4)	横井賢士郎(4)
山本 将平(4)	相原 貴拓(4) 第 16 回びわ湖クルーレス・ソーラーボート大会
中山 治樹(4)	河端 訓孝(4) 先端技術部門 優勝
宮本 学(4)	
◆理工学部長優秀賞	
安東 大智(3)	2012 年度到達度検証試験において、学科内第一位成績
市川 雅也(3)	学外の数々の受賞歴は卓越している。
林 悠平(4)	卒業研究「台風における藤原効果」において、2 個の台風が接近したときに見られる複雑な挙動（藤原効果）の 2 次元ナビエ・ストークス方程式に基づく数値シミュレーションによる解析に積極的に取り組み、重要かつ興味深い結果を得た。また、2 月 18～19 日に行われた卒業研究発表会において非常に分かりやすいプレゼンテーションを行いつつ質疑応答においてもしっかりした受け答えをし、物理科学科で非常に高い評価を得た。

道免 昌平(4)	学科および学部において 4 年間を通じて極めて優れた成績をあげた。
木澤 岳人(1)	川添 亮(1)
大棚 友稀(1)	是枝 菜摘(1) 環境デザイン実習・班別デザイン活動優秀成績
奥村 昂平(1)	小林圭太朗(1)
丸橋 拓矢(1)	鍋谷 佳希(1)
丹黒 啓太(1)	新田 貴司(1) 環境デザイン実習・班別デザイン活動優秀成績
中川 舞香(1)	

◆理工学部長教育賞	
川端 凌介(1)	国際マイクロロボットメイズコンテストにおいて、第 2 位を受賞した。
麻生 翔太(1)	国際マイクロロボットメイズコンテスト（カテゴリ 36 の多足マイクロロボット部門）準優勝、合同ロボコン 1 回生の部 優勝
藤原 達矢(2)	電気電子工学実験Ⅰで優秀な成績を収めた。
藤村 大悟(2)	実験科目優秀者として表彰する。実験レポートに関する試問、添削を積極的に受け、レポートの質向上を図り、優秀な成績を修めた。
渡邊 一裕(2)	Red Bull Paper Wings（自作紙飛行機）の地方大会及び全国大会の優勝、世界大会の 4 位など優れた成果をあげた。
杉森 大起(2)	建築都市デザイン演習で優れた成果をあげた。
佐々木一心(2)	TOEIC で高得点をあげた。
三村 佳奈(3)	電気電子工学実験Ⅲで優秀な成績を修めた。
角田 大記(3)	電気電子工学実験Ⅲで優秀な成績を修めた。
森 和也(3)	電気電子工学実験Ⅲで優秀な成績を修めた。

國近 祐太(3)	実験科目優秀者として表彰する。実験レポートの作成にあたり、文章の工夫、検討・考察のための文献調査に積極的に取り組み、優秀な成績を修めた。
前村 悠輝(3)	学科・学部において特に優れた成績を修め、飛び級入試も受験した。
岩政 恒史(3)	かわさきロボット競技大会バトルロボット部門準優勝。NHK 大学ロボコン 3 度の選考を通過し、本戦出場。
菅 健太(3)	到達度検証試験で優秀成績を修めた。
濫谷 朋樹(4)	難関資格を修得した努力を認めた。
星野 伽弥(4)	卒業研究「複数イオンを持つ高分子液体ブレンドの誘電緩和挙動」において、実験の企画実行に積極的に取り組み、重要かつ興味深い結果を得た。また、2 月 18～19 日に行われた卒業研究発表会において分かりやすいプレゼンテーションを行いつつ質疑応答においてもしっかりした受け答えをし、物理科学科で高い評価を得た。
村田 雅(4)	卒業研究及び海外研修優秀者として表彰する。太陽電池の生産性向上の研究で成果をあげるとともに、カリフォルニア大学留学プログラムに参加し、優秀な成績を修めた。

池畠 佑介(4)	卒業研究及び海外研修優秀者として表彰する。太陽電池の変換効率向上で成果をあげるとともに、夏期短期留学（インドネシア国際協力）に参加し、知見を深めた。
奥野 佑太(4)	4 件の学会発表（内筆頭著者 1 件、論文査読中 1 件）など優れた成果をあげた。
小野寺 聖(4)	国際会議での発表や TOEIC965 点など優れた成果をあげた。
中村 悠太(4)	卒業研究の成果で、複数回学会発表している点を評価した。
高階 亮介(4)	卒業研究発表会で優秀な成績を修めた。
山本 祐介(4)	卒業研究発表会で優秀な成績を修めた。
人見 達郎(4)	卒業研究発表会で優秀な成績を修めた。
桑原 大樹(1)	工藤 駿(1) 機械工学概論のプレゼンで 1 位。
久保田 遼(1)	小嶋 喜久(1)

山路 ゆり(1)	
山村 専(1)	建築環境工学概論で優れた成果をあげた。
山本 健太(1)	
阪部 僚(1)	濱部 周平(2)
栗山 拓(1)	浜野 恭行(3)
石井晃太郎(1)	江藤 修(3)
武藤 健介(1)	大島 宏貴(3)
迫田 隆二(1)	藤野 澤(3) サークル活動（数学研究会）の総括としての雑誌の出版の努力を評価した。
藤原 光基(1)	岩元 駿介(4)
小林 周史(1)	田中 佑弥(4)
井尻 昌幸(1)	吉田 尚矢(4)
齋藤 勇太(1)	井田 有紀(4)
沼上 健人(2)	矢野 大喜(4)

高山 拓也(3)	辻間 敬大(3)	物理学特別実験Ⅱにおいて Mn-Sn 合金の磁気的性質に関する実験を企画実行し、興味深い結果を得た。
上野 愛(3)	眞木 亮太(3)	また、その結果を実験レポートとしてまとめ、物理科学科で高い評価を得た。
森本 純毅(3)	林 明生(3)	物理学特別実験Ⅱにおいて He＋イオンの散乱起動のシミュレーションを企画実行し、興味深い結果を得た。
塚場 悠太(3)	藤井 明彦(3)	また、その結果を実験レポートとしてまとめ、物理科学科で高い評価を得た。
市場 諒太(3)		
大辻 智嗣(3)	大竹 洋志(3)	工作センターに通うなど、グループ全員で協力しあって、熱心に取り組み、作品の性能も良かった点を評価した。
上野 晃平(3)	大坪 祐太(3)	
大隅 梨貴(3)	大仁田裕季(3)	
田中 佑弥(4)	岩元 駿介(4)	確率過程、マルコフ連鎖及び数理ファイナンスの自主学習の成果を評価した。
伊藤 嘉洋(4)	松畑 諒(4)	

情報理工学部	
◆情報理工学部長優秀賞	
藤原 祐輔(4)	SWEST14 でのポスター発表・ESS2012 実践報告部門優秀報告賞受賞
赤池 勇磨(4)	ビブリオバトルにおける制限時間についての発話分析
永井かほる(3)	「うさぎをモデルにしたバンドロボット」の開発
服部 耀介(3)	
◆情報理工学部長教育賞	
長澤 大志(2)	知能情報システム創成 1（A I B O 課題、C G 課題）での技術力向上と基本情報技術者資格取得
坂本 大輔(2)	情報システム学実験Ⅱレポート課題優秀者
鬼倉 隆志(2)	情報システム学実験Ⅱレポート課題優秀者
山田 大記(2)	情報コミュニケーション学実験Ⅱ課題優秀者
平野 愛子(2)	メディアプロジェクト演習 1 最優秀者
小西 晃広(2)	メディアプロジェクト演習 1・メディア情報学実験Ⅰ優秀者
田中 翔馬(2)	知能情報システム創成 1 レポート課題優秀者
安田 充志(3)	情報セキュリティスペシャリスト技術者試験合格 ネットワークスペシャリスト技術者試験合格
近藤 佑斗(3)	メディアプロジェクト演習 2 チャンピオン大会最優秀賞受賞 応用情報技術者試験合格
白井 博秀(3)	応用情報技術者試験合格・基本情報技術者試験合格
古田 真也(3)	知能情報システム創成 2・知能情報学実験Ⅱレポート課題優秀者

ゲンヴァンゲン(4)	kinect と人と異なる関節構造のヒューマノイドロボットを用いた人間動作の模倣
野島 優補(4)	資格取得（TOEIC 試験における好成績取得）
松井 唯(4)	日本音響学会 第 6 回学生会優秀発表賞受賞
鈴木 堅斗(1)	
西川 歩未(1)	情報理工基礎演習レポート課題優秀グループ
安光 拓紀(1)	
平岡 慎也(1)	
重田 賢哉(1)	情報理工基礎演習レポート課題優秀グループ
今岡 隼(1)	
片岡 佑太(3)	ARToolkit と KINECT を連携させたユーザ体験型戦闘 MR システムの実装
岸 夏帆(3)	
天見 高之(3)	

生命科学部	
◆生命科学部長教育賞	
大窪 貴之(1)	実験科目の優秀者
荻山 大輝(1)	品川 由季(1)
奥田 秀樹(1)	東出 真依(1) 基礎演習科目の優秀グループ
佐野 千晴(1)	樋口 啓道(1)
乾 里帆(1)	基礎演習科目の優秀グループ
井原 大(1)	
川原悠太郎(2)	藤本侑莉菜(2) 実験科目の優秀グループ
河野 孝彰(2)	安田 怜子(2)
酒井 晴奈(2)	実験科目の優秀者

柴田 一人(3)	英語科目の優秀者
六車 有貴(3)	英語科目の優秀者
三好 史高(3)	英語科目の優秀者
淵上 愛美(3)	英語科目の優秀者
前田 木実(3)	森 裕晃(3) 英語科目の優秀グループ
増田 悠喜(3)	八木 貴大(3)
田中 卓哉(4)	卒業研究および公定資格取得の優秀者
嶋田 果純(4)	山口 尚人(4)
波北 悟(4)	吉田 浩起(4)
林 萌実(4)	角谷 龍一(5) 卒業研究の優秀グループ
福井小百合(4)	湯淺 大史(5)
前川 佳代(4)	
細木ゆかり(4)	卒業研究の優秀者
芳中 奈生(4)	卒業研究の優秀者

薬学部	
◆薬学部長教育賞	
岡田 佳奈(1)	英語科目の優秀者
小関 大地(3)	資格取得
福井 彩香(3)	英語科目の優秀者
磯田 恭彰(5)	卒業研究成果の学会発表
中井 俊樹(5)	卒業研究成果の学会発表
中井 健人(1)	基礎演習優秀グループ
中尾真季子(1)	

スポーツ健康科学部		
◆スポーツ健康科学部長教育賞（論文部門）		
赤熊 亮祐(1)	長澤 凌輔(1)	ゼミナル大会論文
菊岡 達希(1)	森 優介(1)	「心理的要因がパフォーマンスに与える影響」
高見 朋裕(1)		
生友 明穂(1)	藤田 彩花(1)	ゼミナル大会論文
王子田 萌(1)	間宮 葵(1)	「The influence of stretching on performance ～in running performance ～」
工藤 将馬(1)		
上田 健太(1)	藤原 海輝(1)	ゼミナル大会論文
神山 葉月(1)	宮田 憲人(1)	「Color makes us ～ An impact of color on our mentality and application of it to sports ～」
衣川 晶子(1)		
岡崎 大知(1)	津田 稜大(1)	ゼミナル大会論文
岡本 貴紀(1)	吉田晋太郎(1)	「The relationship between numbers of medal which are gotten at the Olympics and financial supports for sports.」
片桐 陽(1)		
桂田 知良(1)	面方 まり(1)	ゼミナル大会論文
金山 佳香(1)	山本 捷(1)	「子どもの運動能力低下の現状と生活習慣の改善」
徳久 明香(1)		
稲垣 勝哉(3)	森下 倫孝(3)	専門演習Ⅰ・Ⅱの成果物としての論文「日本の大学
小木曾圭祐(3)	八方 克哲(3)	競技スポーツにおけるビジネス的観点の必要性～NCAA のビジネスモデルに焦点を当てて～」
谷口 健人(3)		

◆スポーツ健康科学部長教育賞（活動部門）		
本郷 将太(2)	中田 駿吾(3)	滋賀県で子ども向け運動教室を開校。事業内容は、運動教室の運営と家庭教師型の指導を実施した。
真鍋 明穂(2)	細野 拓也(3)	
辻本直悠貴(3)		
足立 尚也(3)	藤江 隼平(3)	
岡山 修子(3)	松本 明子(3)	
基村 典史(3)	宮崎 泰輔(3)	『美ボティー作り』のための有酸素性トレーニングの検討を行い、その研究結果が京都新聞に掲載された。
庄司 義人(3)	宮原れんげ(3)	
原 亮平(3)	吉田 朱里(3)	
藤井久美子(3)		

東日本大震災 — 私たちにできること —

2013年2月14日(木)～20日(水)の1週間、モダンジャズバレエ部員7名は岩手県大船渡市の公民館に滞在しながら、市内の仮設住宅でボランティア活動を行いました。彼女たちは遠く離れた関西から被災地に向き、何を感じたのでしょうか。部長たちに活動の様子と、現地で感じた思いや現在考えていることについて語っていただきました。

Q1. ボランティアに参加するきっかけとなったことは？

稲葉さん 東北出身ということもあり、以前よりボランティアに行きたいと思っていました。大学の災害復興支援室が募集しているなかで、団体の自主企画で被災者の方を楽しませるボランティアがあることを知り、モダンジャズバレエ部の仲間に声をかけて参加しました。

鳥井さん 稲葉さんに誘われたことがきっかけです。私自身もボランティアに興味がありましたし、東北の災害について知るための良い機会になると思いました。

Q2. 現地ではどのようなボランティアを行いましたか？

大船渡市内4カ所の仮設住宅の室内や屋外で、住民の方々に向けてダンスを披露しました。自主公演で披露してきた作品のなかから猫をモチーフにした明るいダンスを選び、ボランティアメンバーの7人で編成し直して踊りました。子どもたちにダンス体験をしてもらう計画もあったのですが、予想以上に子どもが少なく、実現できなかったのが残念です。

Q3. ダンス以外に被災者の方とどのような交流をしましたか？

高齢者の方が多かったので、運動不足解消の手助けになればと、室内でできる簡単な手足のストレッチをレクチャーしました。他には、一緒に自主公演のDVDを鑑賞したり、京都から持参したお菓子をふるまったりし、被災者の方々とのおしゃべりも楽しみました。

Q4. 被災地でのボランティアを通して何を感じましたか？

稲葉さん 震災から2年も経ち、復興がだいぶ進んでいると想像していましたが、実際はどこから手を付けたらよいかわからないような状況でした。若い世代の方が少ない現状も目の当たりにし、改めて私たちのような若者の力の必要性を感じました。多くの被災者の方に、「忘れないでほしい」と言われ、支援は継続しなければ意味がないこと、遠く離れた場所でも震災を忘れないことが大切だと感じました。一方で、おいしい海産物を食べたり美しい自然を見て町の魅力もたくさん感じ、大船渡が好きになりました。

鳥井さん 被災地は危険というイメージが強かったのですが、実際に行ってみたらきれいな景色があったり、現地の方々がとてもあたたかく歓迎してくださって、被災地にも人が住んだり訪れられる場所があることを実感しました。被災しても、その土地が持っていた魅力までなくなったわけではないのだと思いました。

Q5. 印象的なエピソードがあれば教えてください

稲葉さん 被災者の方から、津波が来たときの話を聞いたことです。思い出すのも辛い経験を私たちに話していただき、言葉のひとつひとつが胸に残りました。別れるときに「ありがとう。また来てね」と涙ぐみながら握手してくださる姿を見て、来てよかった、少しでも役に立つことができたのだと実感することができました。

鳥井さん 仮設住宅を去るときにある被災者の方に言われた言葉が印象的でした。「また来てね」と多くの方が見送ってくれたのですが、その方からは「ちゃんと生きてね」と言われました。この言葉には、震災で亡くなった身内やお知り合いの方への無念さと、命の大切さが込められているのではないかと感じました。

Q6. 今後はどのように被災地や被災者の方と関わっていきたいですか？ また遠くに住む大学生には何ができると考えますか？

稲葉さん 大学在学中に必ずもう一度大船渡を訪れ、今回仮設住宅で出会った方々と再会したいです。ボランティアに行っても自分が役に立つか不安に感じている方もいると思いますが、若い世代の人が仮設住宅に行って高齢者の方とお話するだけでも、十分喜んでいただけます。とにかく一度、足を運んでほしいと思います。

鳥井さん 今後は、自分が現地で得た情報を周りの人たちに発信していきたいです。私たちが震災について忘れないことは、被災地の方々が頑張っていくための心の支えになると思います。被災地から遠くに住む大学生も、大学などが行っている復興支援の取り組みなどに参加して被災地へ向かい、実際に自分の目で見たうえで、どんな支援が必要かを考えてみるのが大切だと思います。

震災を忘れないことが
支援につながっていきます



モダンジャズバレエ部
衣笠キャンパス部長
稲葉 千秋さん
文学部3回生

モダンジャズバレエ部
びわこ・くさつキャンパス部長
鳥井 智加さん
生命科学部3回生



2015年4月、大阪・茨木市に新キャンパスが誕生します

立命館大学は、「教育・研究の質向上」に向けた学びの空間づくり、施設充実を全キャンパスで進めており、その一環として、2015年4月に大阪茨木新キャンパスを開設します。新キャンパスでは、学生の学びと成長を支える新たな教学展開・施設整備に取り組んでいます。

キャンパスゾーニング



概要

所在地 大阪府茨木市岩倉町1番1他
面積 約9.9万㎡
※衣笠キャンパス（京都）：12.6万㎡
びわこ・くさつキャンパス（滋賀）：61.1万㎡
学生数 約6,000名（2015年4月開設時）

学部・研究科

経営学部・経営学研究科、政策科学部・政策科学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科
*2015年4月より、上記学部・研究科の授業は新キャンパスにて開講されます。なお、テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科は、既存キャンパスにおける一部科目の開講を検討しています。
*2016年4月に心理総合系新学部の開設を検討しています。

コンコーステラス



キャンパス立地・アクセス

新キャンパスは交通至便の立地で、通学圏や教育・研究のフィールドが大きく広がります。また、キャンパス周辺には様々な文化・商業施設があり、市街地でありながら緑豊かな環境が特徴です。



新キャンパスの計画やニュースは、キャンパス創造 HP で紹介しています。▶ <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/r2020/campus/oic/>

キャンパスインフォメーション

大阪梅田キャンパス 公開講座のご案内

立命館大阪梅田キャンパスにて9月から開講する公開講座のご案内です。ぜひご受講ください。

2013年度大阪・京都文化講座（後期）

「古きものと新しきもの—大阪京都の芸術」

共催：大阪大学大学院文学研究科、大阪大学21世紀懐徳堂、立命館大学文学部、立命館大阪オフィス

回	開催日	講師名	講演タイトル
1	9/30 (月)	横田 洋 (大阪大学総合学術博物館助教)	連鎖劇と大阪
2	10/ 7 (月)	西林 孝浩 (立命館大学文学部准教授)	半跏思惟像の系譜 - 京都の仏教美術とその源流 -
3	10/21 (月)	竹内 幸絵 (大阪市立大学講師 / サントリーホールディングス)	大阪の美意識を探る - 広告デザインの表象から -
4	10/28 (月)	河角 龍典 (立命館大学文学部准教授)	平安京復原の今昔 - アナログからデジタルへ -
5	11/11 (月)	輪島 裕介 (大阪大学大学院文学研究科准教授)	近代関西の大衆音楽
6	11/18 (月)	冨田 美香 (立命館大学映像学部准教授)	古きものと新しきもの - 戦前時代劇映画の叙法と変遷 -
7	11/25 (月)	中尾 薫 (大阪大学大学院文学研究科講師)	大阪の能、京都の能
8	12/ 2 (月)	八村 広三郎 (立命館大学情報理工学部教授)	無形文化財のデジタルアーカイブ - 舞踊から祇園祭まで -

受講料 1回 1,500円 (7回以上一括申込の場合、10,000円)

2013年度 立命館大阪オフィス講座

回	開催日	講師名	講演タイトル
格差社会の進行と深まる貧困を考える (1～3:3回シリーズ)			
1	9/11 (水)	湯浅 誠 (反貧困ネットワーク事務局長)	格差・貧困問題と民主主義
2	9/18 (水)	唐鎌 直義 (立命館大学産業社会学部教授)	生活保護にいま何が問われているのか
3	9/25 (水)	二宮 厚美 (神戸大学名誉教授)	現代日本の格差・貧困社会化の背景を考える
くすり今昔 (4～6:3回シリーズ)			
4	10/ 2 (水)	羽生 和子 (薬剤師・文学博士)	江戸時代に於ける漢方薬の歴史
5	10/ 9 (水)	北 泰行 (立命館大学薬学部教授)	新薬づくりの夢 ～学から挑戦する創薬のロマン～
6	10/16 (水)	一川 暢宏 (立命館大学薬学部教授)	「くすり」を創り、育てる ～育薬とは？～
美との出会い ～その感性と表現に学ぶ～ (7～9:3回シリーズ)			
7	10/23 (水)	福井 栄一 (上方文化評論家)	上方の舞踊の魅力
8	10/30 (水)	竹内 志朗 (株式会社シュプール代表取締役)	テレビと芝居 手書きタイトル55年
9	11/ 6 (水)	永田 萌 (イラストレーター・絵本作家)	子ども文化と絵本史
社会病理をのりこえる (10～12:3回シリーズ)			
10	11/13 (水)	中村 正 (立命館大学産業社会学部教授)	愛と憎しみ —夫婦間暴力、子ども虐待、高齢者虐待への臨床をととして考える—
11	11/20 (水)	春日井 敏之 (立命館大学文学部教授)	思春期・「第二の誕生」と子どもの世界 —「いじめ問題」から考える—
12	11/27 (水)	水野 篤夫 (立命館大学応用人間科学研究科非常勤講師)	学校外での若者の育ちと支援 ～ユースワークという実践から～
暮らしと法律 (13～15:3回シリーズ)			
13	12/ 4 (水)	薬師寺 公夫 (立命館大学大学院法務研究科教授)	茶の間談義：現代国際紛争と国際法 —2013年の国際紛争をふりかえって—
14	12/11 (水)	松宮 孝明 (立命館大学大学院法務研究科教授)	自動車事故と刑法・刑事立法政策
15	1/15 (水)	二宮 周平 (立命館大学法学部教授)	遺言と遺産分割 ～家族を思う気持ちと家族関係の修復～
激動の中東情勢を読む 民主化・紛争・エネルギー問題 (16～18:3回シリーズ)			
16	1/22 (水)	末近 浩太 (立命館大学国際関係学部准教授)	2011年「アラブの春」以降の中東政治を考える
17	1/29 (水)	吉川 卓郎 (立命館アジア太平洋大学准教授)	中東における国際安全保障秩序構築への課題
18	2/ 5 (水)	堀抜 功二 (日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員)	中東・湾岸情勢と日本のエネルギー安全保障：現状とその課題
人類の営みと環境保全を考える (19～21:3回シリーズ)			
19	2/12 (水)	仲上 健一 (立命館大学政策科学部教授)	低炭素社会の実現に向けて ～都市環境を考える～
20	2/19 (水)	島田 幸司 (立命館大学経済学部教授)	システム思考でみる環境・エネルギー・経済
21	2/26 (水)	桂 良太郎 (立命館大学国際関係学部教授)	たかが里山、されど里山 —平和学と福祉学をむすびつける国際里山塾のこころみから—

受講料 1回 1,000円 (18回以上一括申込の場合、18,000円)

会場 立命館大阪梅田キャンパス (大阪富国生命ビル5階)

時間 各回とも 14:00～15:40

定員 各回 100名【先着順】
※定員になり次第締め切らせていただきます。

申込方法 E-mail、ファックス、郵送のいずれかでお申し込みください。
※お電話でのお申し込みはできません。
※「申込用紙」はホームページからダウンロードできます。

お問い合わせ・お申込 立命館大阪オフィス
(月～金 9:00～17:30) ※土日祝休
〒530-0018
大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル14階
TEL 06-6360-4895
FAX 06-6360-4894
E-mail osaka-of@st.ritsumei.ac.jp

詳細は右記ホームページをご参照ください▶ http://www.ritsumei.jp/osaka_office/index_j.html

東京キャンパス 公開講座のご案内

立命館東京キャンパスにて開講する公開講座のご案内です。ぜひご受講ください。

立命館孔子学院東京学堂 中国語講座

9月末より開催予定 主催：立命館孔子学院

開催日時 18:30～20:00

■入門A 榎本英雄 10/2～1/15	■入門B 榎本英雄 9/26～1/16
■初級I 洪潔清 10/1～1/14	■初級II 李振溪 9/26～1/16
■準中級 李振溪 10/2～1/15	■中級 李軍 10/2～1/15
■準上級 洪潔清 9/27～1/17	

申込期間 7/23～9/14

受講料 一般 27,000円/学生 (立命館以外) 21,000円/
学生 (立命館) 15,000円/立命館関係者 21,000円 (全15回)

第7回税法公開東京講座 —相続への信託の活用の法務と税務—

主催 立命館大学 金融・法・税務研究センター

開催日時 8/24、8/31、9/7、9/14、9/21、9/28

各日とも土曜日 13:30～16:45
(90分×2 13:30～15:00 15分休憩 15:15～16:45)

受講料 50,000円 (全6回)

講師陣 岸本 雄次郎 (立命館大学法学研究科教授)
本山 敦 (立命館大学法学部教授)
望月 爾 (立命館大学法学部教授)
一般社団法人民事信託推進センター社員

受講資格 税理士、司法書士、行政書士、金融機関関係者、企業法務担当者、FP有資格者など信託法・相続法に関心のある方

公費助成の取り組みへのお礼と協力をお願い

私学助成への取り組みは、補助金制度が創設された1970年に始まりました。立命館大学では、1971年から学内の関係パートによる「公費助成のための立命館大学全学連絡協議会」を組織し、保護者負担の軽減、教育・研究の充実等のため公費助成の増額を求める取り組みを継続してきました。

2012年度も保護者のみなさまに署名へのご協力をお願いし、結果として学生・院生や教職員による署名とあわせて、全体で6万9千筆の署名を集めることができました。改めて御礼申し上げます。

2012年度の活動報告

①学習会

教職員、学生・院生が公費助成に関する情勢や必要性を共有できるよう、公費助成に関する学習会を実施しました。

②署名活動

学内では、各職場や小集団クラスにおいて署名用紙を配布し、その意義の説明とあわせて署名への協力をお願いしました。また6月には学生・院生と教職員が協力して全学署名デーを実施し、キャンパス内の学生・院生、教職員に署名を呼びかけました。

③中央要請行動

2012年11月13日(火)、全国の私大関係者とともに私大助成中央要請行動を行いました。本学からは教職員と学生が参加し、衆参両議院の国会議員等を訪問し、署名用紙を届けるとともに、公費助成の増額や必要性について訴えました。多数の議員や関係者の方が学生等の説明に熱心に耳を傾けていただき、多くの共感を得ることができました。

医療経営講座

主催 立命館大学 医療経営研究センター

講師陣 斎藤 清一

(医療経営研究センター副センター長、
BKC 社系研究機構客員教授)

三好 秀和

(医療経営研究センター副センター長 兼 事務局長、
経営管理研究科教授)

トータル人事システム講座 ベーシックコース

開催日時 7/20、8/24 (会場：大阪)、9/14、10/12、11/2、12/21
各日とも土曜日 10:00～16:00

受講料 25,000円/各回

トータル人事システム講座 アドバンスコース (全8回)

開催日時 8/9～3/15 (内2回、会場：大阪)
金曜日 13:00～17:00 土曜日 9:30～16:30

受講料 50,000円/各回 コース申し込みは280,000円

お問い合わせ・
資料請求

立命館 東京キャンパス
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1丁目7-12 サビアタワー8階
TEL 03-5224-8188 **FAX** 03-5224-8189
E-mail tokyo-cp@st.ritsumei.ac.jp

※講座の日程、講師などの詳細は変更になることがありますので、詳細はホームページでご確認ください。

詳細は下記ホームページをご参照ください
www.ritsumei.jp/tokyocampus/index_j.html

2013年度活動の予定

今年度も2012年度に引き続き、学生・院生や教職員に対して公費助成に関する理解を広めるとともに、署名活動や請願活動に取り組みます。



今年度についても、1～3回生の保護者のみなさまに署名用紙をお送りいたします。引き続きご協力をお願いいたします。(郵送は8月上旬、返送締め切りは9月中旬の予定です)